

Ⅲ 令和 5 年度 各区図書館の取組状況(案)

各区ではそれぞれ地域の実情に応じた取組を行っています。次ページからは、令和 5 年度の取組について、各図書館でページを作成しました。

* 数値について

- 人口は堺市推計人口（令和 5 年 4 月 1 日現在）
- 人口以外は令和 5 年 12 月 31 日時点
- 移動図書館は市内を巡回するため各区の統計に含めず、下記に掲載

移動図書館

	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出者数	7,239 人	6,187 人	85.4%
貸出点数	35,088 点	29,492 点	84%
予約点数	2,243 点	1,967 点	87.6%
巡回日数	188 日	187 日	99.4%

※移動図書館は業務委託で運営。駐車場所数は 26 か所。巡回周期は約 2 週間。

※「津久野小学校 正面玄関前」

体育館建替工事のため、令和 5 年 6 月 15 日～工事終了まで巡回を中止(再開時期未定)。

令和 5 年度 堺区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	579,308 点	564,165 点	97.4 %
区民千人当たり	3,910 点	3,798 点	97.1 %
予約点数	33,703 点	30,757 点	91.3 %
区民千人当たり	227 点	207 点	91.4 %
レファレンス受付件数	18,268 件	17,276 件	94.6 %
区民千人当たり	123 件	116 件	94.6 %
来館者数	365,482 人	326,099 人	89.2 %

※堺区人口 148,539 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

※中央図書館、堺市駅前分館、図書館カウンター堺東を含む

※図書館カウンター堺東は貸出者数を来館者数とみなす。

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・図書館利用の少ない層を含め、様々な世代に情報を届けることが課題である。広報内容や時期、手段等、全体的な広報力の強化を図る必要がある。
- ・行政資料をふくめた独自資料の電子化と電子図書館での公開。
- ・学校をふくめた他団体、市民との協働を推進し、特に利用の少ない青少年に向けた書架構築、情報発信をおこなう必要がある。

今年度の目標

中央図書館として以下の目標に取り組む。

1. 現在ある各種メディアをみなおし、戦略的な広報を進める。【育む力】
2. 電子書籍提供サービス（電子図書館）に、堺市独自資料や市広報、各種計画といった行政資料をコンテンツとして収集・公開し、資料紹介・E レファレンス等広報を含めて利用促進を図る。【創る力】
3. 利用者の利便性の向上のため、新たなサービスの試行、検証をおこなう。【学ぶ力】
4. 近隣の学校と連携し、ティーンズエリアの発展、広報に取り組む。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 戦略的広報を進める。		
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	本市図書館のめざす姿を明確にし、その情報を発信することによって市民・庁内の図書館理解と利用の促進を図る。	
内容	図書館ホームページの内容を整理し、利用者にわかりやすい構成に変更する。 SNSを含めたすべての広報媒体で全体の統制をとり、効果的な広報を進める。	
効果	図書館に関する情報の獲得手段として現在主流になっているホームページをわかりやすくすることで、既存の利用者だけでなく新たな利用者への情報発信力を強化する。 また、広い年齢層に様々な情報を積極的に発信することで、市民の図書館への理解を深め、積極的な利用を促す。	
指標	図書館ホームページアクセス数、SNS 発信数	
実施結果	・図書館ホームページアクセス数は 1,597,097 回(令和 5 年 12 月末時点。令和 4 年度 2,388,803 回)。 ・図書館ホームページは利用案内の内容と目次の整理、レファレンス検索の利用方法、当該年度に実施するボランティア講座一覧、サポーターの各館別の活動内容の掲載等利用案内、調べもの、こどものページ、ボランティアページを中心に、全面的に改訂（今年度中に公開予定）。 ・SNS は公式 X（旧 Twitter）を 521 回投稿（令和 5 年 12 月末時点。令和 4 年度 543 回投稿）。	
効果検証 ※それぞれの項目を◎○△×の4段階で評価	①妥当性	図書館のサービスを認知してもらい、そこから利用につなげるためにも、情報発信機能の強化は不可欠である。
	②インパクト	本市ホームページ更新に伴い図書館ページのレイアウトも変更となったことで、ページの見直しによる利便性向上に寄与できた。 公式 X（旧 Twitter）では庁内他部署（各区長公式アカウント）がリポストしてくれる等、情報拡散の効果があつた。
	③効率性	見直しができたページは主要なページの一部だけであり、今後も知りたい情報にすぐアクセスできる分かりやすいホームページになるよう見直しをする必要がある。
	④協働の視点	-
評価	スマートフォンで図書館ホームページを利用する人々も増え、「分かりやすさ」「見やすさ」という観点からページの見直しを進めた結果、記載内容が見直され、1 ページあたりのテキスト量も削減されたことで分かりやすいページとなった。また、歴史文化市民講座やボランティアに関する情報といった同じ属性の情報を一元管理する等に取り組んだ。 公式 X（旧 Twitter）で「#もうすぐ図書館に入ります」と題した受入前資料の紹介を定期的を実施したところ、一般の方以外でも出版社や著者からアカウントフォロー、リポスト等の反応があつた。	
課題、改善提案等	利用者からも H P の内容や表示に関する要望や提案は多く、「分かりやすい」「見やすい」以外にも「親しみやすい」という観点でもページを作成していき、テキスト・画像等で情報発信し、今後も刷新につとめる。	

	また、SNS は広範囲に情報拡散が行われることもあり有効なツールであり、今後も情報発信の中心になると思われるが、併せてデジタルデバイドの解消に向けた取組も課題である。
--	---

2. 堺に関する独自資料として、地域資料に加えて行政資料を収集・公開し、電子図書館のコンテンツとして堺の情報の発信と継承に貢献する。		
サービスの具体的方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
目的	堺市独自の電子図書館資料として行政資料を収集・公開する仕組みを構築し、堺の情報の発信と継承に貢献する。	
内容	行政部門の各部署が作成した計画・要覧等の行政資料を堺市独自の電子図書館資料として収集し、公開をすすめる。	
効果	毎年定期的に作成される行政資料を電子図書館で体系的・網羅的に収集・公開することで、紙媒体の図書館資料と一括して検索できる。従来図書館で紙媒体でしか提供していなかった行政資料がデジタルで公開されることで、市民に限らず国内外の人々が堺のことを知り、学ぶことができるようになる。	
指標	堺市独自資料の公開件数・閲覧数、地域資料の E レファレンス件数	
実施結果	今年度新たに公開した電子書籍は「[堺市]教育要覧」「堺市消費者基本計画」「堺市国土強靱化地域計画」「生物多様性・堺プラン」等 6 点で、他に 4 点を準備中（令和 6 年 1 月時点）。また「広報さかい」は最新のものに加え、過去にさかのぼって 2016 年 1 月以降の号を電子図書館に登録・公開した。	
効果検証	①妥当性	ICT 化の推進等で行政資料のペーパーレス化が進んでいるなか、行政資料を収集、電子書籍化の上、図書館ホームページにある電子図書館で公開することにより、堺市の情報を広く周知することができる。
	②インパクト	堺市の電子図書館上で公開。
	③効率性	電子図書館で公開することにより、場所、時間を問わず堺のことを知り、学ぶことができるようになる。
	④協働の視点	庁内連携により市の情報を広く発信する。
評価	昨年度制定した要項に基づき、今年度は複数の行政資料を電子書籍として公開することができた。公開した資料の閲覧実績はあわせて 127 回で、昨年の 2 倍以上となった。さかのぼって掲載した広報さかいも発行年月から検索できるようにし、過去の号の閲覧の利便性も高めた。	
課題、改善提案等	行政資料の電子書籍化は今後の市民への情報提供のためにも必要な取組だが、まだ数は多くない。今後も他部局に電子書籍化の意義を伝えてデータ提供の働きかけを続け、行政資料の電子書籍化を進めていく。	

3. 新たなサービスを試行実施し、検証して利用者の利便性の向上に努める。		
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。

目的	利用者の利便性の向上や資料の満足度につながる新たなサービスの検証	
内容	・コンビニエンスストアでの返却取次事業を令和 5 年 6 月～11 月まで試行実施し、その効果を検証する。 ・分館の新刊資料を共有資料として所蔵館を固定しない運用を試行する。	
効果	・乗降者数が多くかつ近隣に図書館のない駅の近くにあり、若者世代、働き世代がよく利用し、通勤・通学・買い物等の途上で立ち寄ることができるコンビニエンスストアと連携して試行実施することにより、返却ポイント（箇所）の増加が利用者の利便性向上に繋がるのか等市民ニーズを検証する。 ・分館資料の書架の新鮮さを維持し、分館の資料満足度の向上をめざす。	
指標	・実施店舗での返却冊数、利用者数 ・分館共有資料の対象となった分館の「本や雑誌の種類について」の評価	
実施結果	・コンビニエンスストアでの返却取次事業について、令和 5 年 6 月～11 月の 6 か月間で、返却冊数は 9,780 冊、延べ利用者数は 3,266 人であった。 ・分館共有資料の対象となった東百舌鳥、初芝、梅、美木多分館の今年度のアンケートでの「本や雑誌の種類について」の満足度の評価は 4 分館の平均 3.57（昨年度は 3.31）。	
効果検証	①妥当性	基本方針におけるサービスの具体的方向性①の新規取組にある「資料を市民の近くまで届ける仕組みを検討します。」に合致した新しい仕組みである。
	②インパクト	コンビニエンスストアでの返却取次事業については国立国会図書館が運営する図書館界に関する最新の情報を紹介するウェブサイトにも取り上げられたほか、実施期間中も利用者からの好意的な意見が多かった。
	③効率性	コンビニエンスストアでの返却取次事業は多様化するニーズの変化に対応したサービスを検討するために期間限定で試行実施し、アンケートも併せて実施してニーズ調査を行えた。また、分館共有資料を取り入れることにより、限られた予算の中で来館者が多様な資料に接する機会をつくることができた。
	④協働の視点	-
評価	コンビニエンスストアでの返却取次事業 ・試行実施の結果、利用実績やアンケートなどから市民のニーズを把握し、新たなサービスの本格実施への参考となる資料を得ることができた。 ・期間中の利用数は増加傾向であり、延べ利用者数のうち、40 代、50 代が 46%（同期間の市内全図書館の貸出実績では 31%）、20 代から 50 代までの若者世代、働き世代は 63%（同 43%）であり、若者世代や働き世代に対して効果があったと考える。 ・今回実施した店舗からは、「お客様からの反応は好評。」「実施前に試行方法について十分協議できたことにより、実施中に店舗側で不安感はなく、業務上の負担感もなかった。」「ついで買いや、普段見ないお客様が来店される等、店舗としても効果を実感している。」との意見があった。 分館共有資料 令和 5 年度利用者アンケートでは分館共有資料を実施した分館すべてで「本や雑誌の種類」に関する満足度の評価が昨年度より高くなっていることから、一定の効果があったと考えられる。	

課題、改善提案等	コンビニエンスストア返却取次事業については、試行実施の結果を分析し、今後に向けた取組を検討する。分館共有資料については継続して実施し、引き続き効果や手法を検討する。
----------	--

4. 近隣学校と連携したティーンズコーナーの構築		
サービスの具体的方向性		⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	青少年にとって魅力的な事業や資料提供を実施することで、図書館を青少年がすすんで利用し、学ぶ場所として活用されるようにする。	
内容	青少年による本の紹介や、創作・情報発信の場の提供等、高校等と協働して事業を実施する。	
効果	同年代の参加する事業を行うことでその世代のニーズを把握し、青少年が魅力を感じる資料提供や企画等が実施できる。	
指標	事業実施回数	
実施結果	高校との連携による実施回数 3 回、 図書館実習生による棚づくり 1 回	
効果検証	①妥当性	来館・利用が少ない世代に対して、こちらから働きかけることで事業への参加を促し、同世代が魅力を感じるような書架を構築することができる。
	②インパクト	設置したコーナーは棚ごとのテーマタイトルを付けるなどの工夫をし、並べる資料は面展示を中心にして、来館者の興味を引くようにした。
	③効率性	高校生と協働することにより、効果的に同世代が魅力を感じる書架構成につながられた。
	④協働の視点	泉陽高校、三国丘高校、堺高校と協働して実施
評価	前年度の実績を踏まえてこれまで連携実績のなかった高校にも働きかけ、複数回実施することができた。また、実施方法についても、高校生が実際に来館して棚づくりをする、学校で作成した P O P を送付してもらってそれを展示するなど、相手の学校に合わせた方法で実施できた。	
課題、改善提案等	前年度よりも実施回数は増えたが、今年度のティーンズエリアの貸出冊数は前年度と比較して横ばいであり、S N S を活用するなど積極的な広報が必要と考えられる。	

取組の様子

○改定HP（予定）※写真は一例

中央図書館（堺区 大仙中町）	
活動内容	時期
書架整理（一般書）	毎月2回
破損資料の修理・古物圖書の整備	第2・4木 曜
地域資料情報リスト作成（パソコン入力）	不定期
行事運営サポート、大型展覧会など行事用資料の製作、養成講座での図鑑資料の修理・書架整理 実施	不定期

堺市駅前分館（堺区 田出井町）	
活動内容	時期
書架整理	随時

図書館サポーターに興味を持った方に実際の活動内容をわかりやすく案内できるよう、各館のサポーター活動の内容と活動日を表示したページを作成。

○堺市電子図書館の「広報さかい」巻号一覧画面



第1面が画像で表示され、上部検索窓で発行年月による検索ができる。

○高校生、図書館実習の大学生が設置したティーンズコーナーの模様



表紙をみせて棚に並べ、棚に飾りつけも行って来館者の目に留まるようにした。

令和 5 年度の取組総括
・H P の見直し、コンビニエンスストアでの返却取次事業の試行実施、行政資料の電子書籍化、高校生との協働による棚づくりなど今年度実施した取組はどれも一定の効果があったと考えられる。今後も成果を分析し、適宜内容を見直しながら取組を進めていく。

図書館協議会委員の評価
●

令和 5 年度 中区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	289,718 点	272,546 点	94.1 %
区民千人当たり	2,419 点	2,293 点	94.8 %
予約点数	11,718 点	11,266 点	96.1 %
区民千人当たり	98 点	95 点	96.3 %
レファレンス受付件数	5,260 件	4,394 件	83.5 %
区民千人当たり	44 件	37 件	83.7 %
来館者数	147,532 人	146,254 人	99.1 %

※中区人口 118,879 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

※中図書館、東百舌鳥分館を含む

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・「ソフィア・堺」内の各施設との連携については、より相乗効果が生み出せるよう、さらに取組の充実に努める必要がある。 ・学校や地域、図書館サポーターと連携し、市民と図書館のつながりを深める機会になるように、講座やイベントを実施する必要がある。 ・「介護」や「認知症」といった社会的な課題（テーマ）に係る取組については、より広く多くの市民に、参加や関心を持っていただける機会になるよう、専門機関等との連携、協力を深めて、引き続き取り組んでいく必要がある。

今年度の目標
区域の知の拠点・情報の拠点として、市民ニーズ、社会ニーズに応える資料・情報の提供に取り組むとともに、図書館の利用促進につながるよう以下の取組を実施する。 ソフィア・堺内の「プラネタリウム」「平和と人権資料館」「中文化会館」および「教育センター」との連携を深め、相互に利用が活性化するよう取組を進める。【 学ぶ力 】 専門機関との協力事業を通して、社会的な課題の情報発信を行う。【 学ぶ力 】 青少年の図書館利用および特色ある資料の利用促進に向け、書架の見直しや情報提供の充実等を図る。【 育む力 】

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 「ソフィア・堺」の各施設との連携の強化	
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	ソフィア・堺内にある各施設と連動した取組を実施し、市民が多角的に学ぶ機会を提供する。

内容	中文化会館、プラネタリウム、平和と人権資料館および教育センターが実施する事業と連携したブックフェアを開催するとともに、共催イベントも実施する。	
効果	多角的な学びの機会を提供することで、各施設と図書館の利用を促進し、相乗効果により、相互の施設利用活性化が図られる。	
指標	ブックフェア等の連携事業の実施回数	
実施結果	【教育センターとの連携】〈令和 5 年度:25 回 令和 4 年度:19 回〉 ・教職員研修時に図書館の利用案内および資料の出張展示を実施した。(13 回) ※令和 5 年 12 月末現在。令和 6 年 1～3 月、10 回実施予定。 ・教科書展示会の実施(令和 5 年 6～7 月) ・堺科学教育フェスタに関連したブックフェアを実施(令和 5 年 7 月) 【プラネタリウムとの連携】〈令和 5 年度:12 回 令和 4 年度:8 回〉 ・プラネタリウムできく! 星のおはなし会を実施(2 回)〈令和 5 年度新規〉 (* 星空の解説と関連するお話しの組み合わせ) 第 1 回 8 月 19 日 37 名(大人 23 人 子ども 14 人) 第 2 回 3 月 23 日開催 ・プラネタリウムの投影プログラムに合わせたブックフェアを実施(通年/内容更新 10 回) ※1 月末現在 【平和と人権資料館との連携】〈令和 5 年度:1 回 令和 4 年度:1 回〉 ・資料館の企画展「沖縄戦・ひめゆり学徒隊」のテーマに合わせたブックフェアを実施(令和 5 年 4～6 月) (* 中文化会館においても同テーマで落語会を実施し、三者連携により事業を展開) 【中文化会館との連携】〈令和 5 年度:2 回 令和 4 年度:2 回〉 ・中区区民フェスタにおいて、SDGs をテーマに中文化会館と協働した取組を実施(令和 5 年 10 月)	
効果検証	①妥当性	他施設の利用者も含めて幅広く、図書館の資料・情報を提供できた。 また、ソフィア・堺全体の活性化が図られることが、図書館の利用促進等につながる。
	②インパクト	利用者にとっては、他の施設のことを知る、あるいは、あらためて注目する機会となった。また、市民が多角的に学ぶ機会を提供できた。
	③効率性	広報活動においては、各施設が相互に P R を行うことで、効率・効果が高まった。 また、施設利用に関して相乗効果が図られた。
	④協働の視点	ソフィア・堺の各施設と連携した取組を実施。
評価	今年度は、従来からの取組に加えて、プラネタリウムでのおはなし会や三者連携による事業展開など、新たな取組も進め、連携事業を充実・発展させることができた。 こうした連携事業により、施設間における利用者の行き来が生まれ、関連するブックフェアの利用においても、その相乗効果が感じられた。 また、これまでの継続した取組により、各施設において、連携・協力を深めていこうとするスタンスがより明確となり、今後の事業展開も発展させていく方向が明確になった。	

課題、改善提案等	複合施設という「強み」を活かした連携事業を継続、発展させ、図書館に対する関心や注目をより高めていく必要がある。 そのためには、毎月開催のソフィア堺館長会が、施設間の情報交換（共有）と新たな取組を検討する場として機能するように働きかけるとともに、現行の取組についてもPDCAの考えに基づき見直しをすすめる。 なお、次年度はソフィア堺 30 周年ということで、施設間を行き来できるような企画提案を行いたい。
----------	--

2. 専門機関等との連携事業の実施		
サービスの具体的方向性		③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
目的	専門機関と連携し、社会的な課題について情報の提供を行い、市民が関心を持ち理解を深め、また、抱える課題の解決を図る一助とする。	
内容	中基幹型包括支援センターとの連携による「介護予防」「認知症」に係るパネル展の実施、及び、関連イベントの開催。 子ども家庭課等との連携による課題解決支援講座（テーマ「里親制度」）の開催。	
効果	要介護者や認知症者又はその家族や介護者の支援および里親制度の普及促進につながる。 また、社会全体、地域全体で子どもや認知症者・要介護者およびその家族を支えるといった住民意識の醸成につながる。	
指標	参加者の理解度・満足度（アンケート等による）	
実施結果	・令和 5 年 8 月に「介護予防パネル展」の開催および関連ブックフェアの実施。 ・令和 5 年 9 月に「認知症パネル展」を開催するとともに、“認知症と共に歩む”をテーマにブックフェアを実施。また、9 月 30 日には関連イベント「認知症ってなあに？」を開催。 イベントには目標 35 人を上回る 41 人の参加があった。イベントにおいては、年配者の方がスタッフに熱心に相談され、若い親子連れの方が興味深げにスタッフから認知症について話を聞くなど、さまざまな形で理解が深まったと思われる。また、パネル展については、アスマイル利用者数（217 人）から、1 日平均 8.3 人の来場があった。 *「アスマイル」:大阪府が提供しているスマートフォン向けの健康アプリ ・令和 5 年 10 月に「児童養護施設・里親制度」に関するパネル展を開催し、10 月 21 日に課題解決支援講座「ききたい！知りたい！児童養護施設や里親のこと」を開催（参加者 7 人/定員 30 人）。 アンケートでは、理解がとても深まった 3 人、深まった 2 人、無回答 1 人だった。自由記載欄では熱心な内容が見受けられ、どなたも参加してよかったという満足感が伝わってきた。 ・保健センターとの連携のもと、月ごとに健康に関するテーマを定め、ブックフェアを実施（12 回）。	
効果検証	①妥当性	専門家の見地から、市民生活における課題等に対する有益な知識や情報を、市民に発信することができた。
	②インパクト	各パネル展については、来館者の目に触れるよう、通路にそって展示を配置した。

		「介護」や「認知症」に関する課題などを抱える市民に対して、具体的に役立つ情報を提供する機会となった。 また、「里親制度」などの社会的養育について、市民が意識を向け、理解を深めるための一助となった。
	③効率性	専門機関が有する資源（知識・情報等）の活用により、効率的かつ効果的に取組をすすめることができた。
	④協働の視点	企画段階から関係各課や関連団体等と連携・協力のもと、事業実施に至った。
評価	これまでの積み重ねにより、中基幹型包括支援センターとは密接な関係が築かれ、連携事業の企画運営がスムーズに展開された。 「認知症パネル展・イベント」においては、パネルに熱心に目を向ける来館者も見受けられ、ブックフェアの利用も含め、認知症を理解いただける機会につながったと感じられた。 また、イベントは目標人数を上回り、特に、具体的に課題を有する方にとっては、専門家からの有益な情報が得られ、課題解決に向けた一助となった。なお、認知症を学習で学ぶ機会があることから、小学生にも理解を深めてもらいたいとの思いのもと、近隣小学校（2校 約800人）の生徒に対しイベント案内を行ったが、該当小学校児童の参加は3人だった。 新たな取組として、民間団体等（里親支援機関・児童養護施設・里親会等）の協力のもと、里親制度についての情報発信を行い、市民啓発につなげることができた。取組の一つである課題解決支援講座においては、参加者は7人であったもの、里親希望の方や中区以外からの参加者もおられ、熱心な姿勢で学ばれていた。体験談などを含めた講義内容も充実しており、受講アンケートでは、「これまで具体的なお話をきける機会がなかったので参考になった」「自分で調べた事と実際の制度は変わっていた事に気づいた」「実際の里親や施設経験者の話は貴重で心をうたれた」「参加してよかった」などの意見をいただき、参加者全員から高い評価が得られた。	
課題、改善提案等	中基幹型包括支援センター等の専門機関との連携により、社会・市民に役立つ情報発信を継続していくことは望ましいと考える。 そうした中、市民に関心を向けてもらえるよう、新たなテーマの検討や実施内容の見直しを図る必要がある。特に、小学生も対象に含めて実施する場合には、興味・関心を向けてもらえるように工夫が必要である。 また、パネル展示に関しては、現状、スペースが限られるため、見づらく感じられる。視認性を高め、より啓発効果が得られるよう、エントランスのスペースを活用するなどの改善の余地がある。	

3. 書架の見直し及び情報提供等の充実

サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	利用の少ない青少年に係る書架の見直し、また、中図書館の特色である「教育情報コーナー」の資料の充実と効果的な情報提供により、図書館利用の促進につなげる。
内容	学校等との協力のもと、ティーンズコーナーを新たに設置する。 教職員及び教育に携わる方のニーズにマッチした教育情報コーナーの資料の充実を図る。

	教育センターとの連携による教員研修時の資料展示や、教育情報コーナー新着リスト作成など、教職員に対する図書館や資料に関する情報提供の充実を図る。	
効果	主に 10 代後半にターゲットをしぼることで、よりニーズにあった書架とし、一人でも多くの図書館利用促進、今後の継続利用につなげる。 教育情報コーナーの利用促進により、図書館の役割でもある「教職員支援」「学校支援」につながる。	
指標	ティーンズコーナーの設置／教職員支援に係る取組件数	
実施結果	・書架整理をすすめ、一般書のエリアに、ティーンズコーナーを新たに設けた。その後、中高生の目線に立った魅力ある書架づくりに向け、大阪公立大学ボランティア・市民活動センターとその活動に携わっている学生の協力を得て、案内ポスターやブックリストの作成、ブックフェアの実施に向けた取組を進めている。 ・教育情報ネットワーク等を通して、「新着資料リスト（毎月）」9 回（12 月末現在）やテーマ別に選定した「教職員支援用ブックリスト（隔月）」5 回（1 月末現在）により、教職員向け図書の情報提供を行った。 ・教職員研修会場にて資料展示 13 回（12 月末現在）を行い、教職員向け図書の情報提供を行った。 ・教職員支援策の一案として、図書館に来館しなくても身近に本があれば利用するのか、どのような本に関心があるのかを検証するため、令和 5 年 10 月から半年間、近隣小学校において、「職員室文庫」の設置運用による効果検証を行った。 利用された資料数は実質 21 冊（56 冊中）、利用者数は延べ 29 人（教職員数 30 人）であった（令和 6 年 1 月時点）。なお、教員が希望する図書（55 冊）に対する未所蔵（24 冊）の割合が高く、十分に期待に沿えない一面があった。 なお、現在、当該取組に関する利用アンケートを実施中である。 ・教職員の図書（館）の利用ニーズ等の把握のため、教育センターの協力のもと、研修時にアンケート調査を実施。（～3/1 まで実施中）	
効果検証	①妥当性	市民の読書環境の充実には、当館の特徴である教職員向け、及び、利用の少ない若年層向けに取組を進める必要がある。
	②インパクト	「ティーンズコーナー」を新たに設置したことで、ワンストップでティーンズにアピールする場となり、利便性の向上が図られた。
	③効率性	「職員室文庫」の取組やアンケート調査により、効果的・効率的に教員の資料利用傾向やニーズの把握ができた。
	④協働の視点	大阪公立大学及び深井小学校の協力を得て事業実施。 教育センターの協力を得て、アンケート調査を実施。
評価	「ティーンズコーナー」については、司書の選書により一旦棚づくりを行った後、大阪公立大学ボランティア・市民活動センターの協力のもと、利用促進・魅力向上につながる取組を進め、また、高校生を含む組織によるティーンズコーナーづくりについての検討もしており、目的に向かって着実に取組を進めることができた。	

	新たな教職員支援については、今後のあり方や方向性を導き出すまでには至らなかった。ただ、今回の取組により、本を利用する割合等教員の図書(館)の利用にかかる現状等の把握ができ、今後、教職員支援の検討を進めていくうえで参考になるデータが得られた。
課題、改善提案等	「ティーンズコーナー」に関しては、大学生・高校生による組織づくりとその運営に向け、協力関係の構築が課題である。 今回の「職員室文庫」について実績効果の整理を図り、教職員支援としての有効性について検討を進めるが、既存の図書館資料とニーズのミスマッチや効率的な事業展開の面で課題も感じられる。教職員支援策としては、例えば ICT 化を見据えた電子書籍の活用や、非来館型サービスのありかたなど、さまざまな観点からニーズに合ったサービスを予算や人員も含め、他部署とも連携しながら検討していく必要があるのではないかとと思われる。 教職員向けの資料収集においては、ニーズの把握と反映する仕組みづくりを検討する必要がある。

取組の様子

1. 「ソフィア・堺」内の各施設との連携事業の実施



プラネタリウムで行った「星のおはなし会」



「ひめゆり学徒隊」関連ブックフェア
(中文化会館・平和と人権資料館と連携)



ソフィア・堺で教職員研修時に、資料展示



中区民フェスタで SDG s 関連展示
(就労移行支援事業所等と連携)

2・専門機関等との連携事業の実施



認知症パネル展



認知症イベントで、職員による絵本の読み聞かせ



「児童養護施設・里親制度」に関するパネル展



課題解決支援講座
（「ききたい！知りたい！児童養護施設や里親のこと」）

3．書架の見直し及び情報提供等の充実



ティーンズコーナー設置を大阪公立大学学生らと相談



深井小学校に設置した職員室文庫

4. その他



堺歴史文化市民講座（中区歴史さんぽ）



ぬいぐるみおとまりとしょかんツアー

令和 5 年度 of 取組総括

- ・「ソフィア・堺の各施設との連携事業」および「専門機関等との連携事業」については、ここ数年、継続して取組を進めてきたことで、内容や回数も充実してきている。これらの取組は、役立つ情報提供における図書館サービスの充実や、図書館の利用促進に寄与していることから、引き続き、取り組んでいく必要がある。
- ・その他にも、図書館に関心が向き、利用につながる取組をすすめ、一定の効果が確認できた。
 - ▶「ぬいぐるみおとまりとしょかんツアー」（参加者 10 人）。
 - 受付開始同時に定員に達し、関心の高く、図書館に対して意識が高まる機会となった。
 - ▶堺歴史文化市民講座「中区歴史さんぽ」（参加者 34 人）。
 - 堺の歴史文化への興味が深まり、関連する図書の利用にもつながった。
 - ▶こども司書養成講座（参加者 6 人）。
 - 司書の仕事や図書館の仕組みを学び、図書館や読書に対する関心を高めることができた。
- ・教職員支援として、これまで、教育情報コーナーの資料の充実を図るとともに、研修時の資料展示や教育情報ネットワークによる情報提供などを通して、資料の利用が図られるよう努めてきた。こうしたことが活用に結びついている面もあるため、引き続き、取り組みを進めていく必要がある。
- また、今年度、近隣小学校において、授業におけるブックトークの実演や、学校図書館と中図書館を活用した調べものの形式のスタンプラリーの共同実施などを行った。今回の取組を契機に、引き続き取組を積み重ねていく中、図書館と学校司書との連携のあり方についても考えていく必要がある。
- ・利用しやすく、魅力ある書架づくりに向け、取組途中であるティーンズコーナーを含め、見直し、改善を図っていく必要がある。

図書館協議会委員の評価

令和 5 年度 東区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	302,552 点	307,224 点	101.5 %
区民千人当たり	3,578 点	3,639 点	101.7 %
予約点数	21,777 点	21,979 点	100.9 %
区民千人当たり	257 点	260 点	101.2 %
レファレンス受付件数	3,643 件	5,885 件	161.5 %
区民千人当たり	43 件	70 件	161.9 %
来館者数	205,164 人	219,846 人	107.2 %

※東区人口 84,429 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

※東図書館、初芝分館を含む

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・子どもや青少年が豊かな学びを得ることができるような取組を実施するとともに、その場限りではなく継続して活躍できるような場をつくる必要がある。 ・区内施設・関連部局などとの連携を評価していただいたが、継続して連携を図り相互に協力しながら、市民の課題解決につながる情報発信を行う必要がある。 ・様々な世代に親しみを持ってもらい、身近で使いやすい図書館となるよう、市民のニーズに応じた取組を検討する必要がある。

今年度の目標
東区の知の拠点として、他機関と連携しながら利用者の課題解決やニーズを満たすため、以下の目標に取り組む。 1. 子どもや青少年が読書への関心を深めるためのサービスを継続して行う。【学ぶ力】 2. 他機関や利用者が抱える課題の周知・解決のため、他機関と連携をした情報発信・情報提供や関連事業を実施し利用者の関心を深める。【育む力】 3. 高齢者が多い地域のため、シニア向けに学習の場及び交流の場を提供する。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 子ども読書活動推進に関わる事業の実施	
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	子どもの学びの場の提供と、読書環境の醸成及び図書館の利用促進
内容	・地域と連携し、子どもと保護者がともに学び、体験できる講座を実施する。 ・子ども司書養成講座を実施し、その後、継続して活動できる機会を設け活躍の場を提供する。

効果	保護者向け講座は実体験を通じて、子どもの好奇心が養われ、保護者と共有することでより興味を深めることができる。 また、子ども司書が地域の読書リーダーとして継続して活動する機会を作ることで、図書館を PR し、周囲に読書の楽しさを伝えてもらい、図書館の利用促進につなげる。	
指標	参加者数・アンケートの満足度 子ども司書の活動回数	
実施結果	・保護者向け講座「家族でおでかけ「旅鉄」プランをつくろう」実施（子どもと保護者）参加者数 41 人 関連ブックフェア・北野田駅と連携したミニ展示と駅長への質問受付実施 ・保護者向け講座アンケート満足度、「満足」94.1% ・子ども司書養成講座（2 日間）参加者数のべ 13 人 ・子ども司書の活動 3 回・参加者数のべ 13 人（※令和 6 年 1 月末現在） 「子ども司書の読み聞かせ」「本の福袋」「東図書館春のうきうきフェスタ」 ・東図書館春のうきうきフェスタの実施予定（令和 6 年 3 月）	
効果検証	① 妥当性	実体験を通じて、豊かな学びを得ることができる機会を提供し、継続して活動できる機会を設けた。保護者向け講座においては満足度も高かった。
	② インパクト	保護者向け講座においては、講座と連動して様々な取組を実施し、興味をひくことができた。子ども司書の活動についても、利用者に活動を知ってもらえる機会となった。また公式 X (旧 Twitter)でも広報するなど積極的な広報に努めた。
	③ 効率性	事業と連動して利用者に興味を持ってもらうような参加型の取組をすることで、広報の効果が高まった。
	④ 協働の視点	おはなし・読み聞かせボランティアと協働し、子ども司書養成講座の協力、「東図書館春のうきうきフェスタ」おはなし会や工作などの運営に協力を得た。
評価	保護者向け講座では保護者と子どもが一緒に「旅のプラン」を作り上げる内容であったが、北野田駅と連携して講座と連動した様々な取組を実施できた。アンケート結果は満足度が 94.1%と高く、満足な理由や感想として「子どもと一緒に」体験できたことがよかったというものが多く、子どもの好奇心や創造力を養う機会となった。子ども司書の活動の機会を作ることで継続して図書館に親しんでもらうことができる。また「本の福袋」については利用者から「とてもよい」「わくわくします」と好意的な声があり、用意した 30 セットすべてが貸出された。	
課題、改善提案等	子ども司書が継続して活動していくための活動内容や計画をしっかりと立てる必要がある。また、地域との連携を継続しておこなっていく。	

2. 関連部局・機関と連携した事業の実施

サービスの具体的方向性	③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
-------------	-----------------------------

目的	・様々なテーマについて、関連部局や専門機関と連携して関連した情報や支援情報等を発信することで、市民が関心をもつ機会を作る。 ・ホームページや 公式 X（旧 Twitter）などを活用した広報を実施することで、効果的に図書館について周知を図る。	
内容	・関連部局や機関と連携し、市民の関心のあるテーマでの展示やブックフェア等を実施する。 ・ホームページや 公式 X（旧 Twitter）などの SNS、また関連部局を通じた広報で、事業の案内・報告などの情報を適宜発信する。	
効果	地域とつながりのある関連部局や機関と連携して資料や専門的な情報を提供することで、課題解決につながる機関を周知し、市民の学びを深める。また、図書館に馴染みのなかった市民に対しても図書館サービスについて周知を図るなど相乗効果をもたらす。	
指標	連携事業・連携ブックフェア開催回数 連携機関数	
実施結果	・連携ブックフェア 11 回【令和 6 年 1 月下旬現在 9 回】（東文化会館、環境共生課、東基幹型包括支援センター、保健センター、環境施設課、政策企画部広域連携担当、登美丘高校、北野田駅、（一般社団法人）プラスケア） 東基幹型包括支援センターとは、「本とつながるパネル展」の他、連携して認知症関連資料のブックトークと関連カードゲーム体験会を実施した。 ・ブックフェア以外の連携 産業振興局産業戦略部と連携し、東図書館の特色ある資料の棚にビジネス関係情報を継続して配置できるコーナーを設置。「ビジネス×図書館 ビジネス情報の調べかた」のリーフレットを作成した。また、関連施設（S-cube）へビジネス資料を団体貸出し、図書館資料のコーナーを設置、併せてコーナーで図書館の PR を行うなど相互に広報できる体制づくりをした。 読み聞かせ講座講師派遣、司書体験（登美丘高校） ・連携機関数 10 機関 ・ブックフェアや事業（連携なしのものも含む）に関する公式 X（旧 Twitter）の発信数 71 件（東 43 件、初芝分館 28 件※令和 6 年 1 月末現在）	
効果検証	① 妥当性	展示に加えて様々な取組を実施することで、より課題解決や啓発につながると考えられる。
	② インパクト	特設ブースでの展示のため、視認性が高いが、非来館者への広報という点では、デジタル機器を利用しない世代への広報について課題が残った。
	③ 効率性	専門機関と連携をはかることで、現状や市民のニーズに応じた資料や情報を提供することができた。
	④ 協働の視点	東基幹型包括支援センター等とは継続して連携しているが、他にテーマに関係する専門機関等からも情報や資料を得ることで、より充実した内容になるよう

		工夫した。また、産業振興局やビジネス支援関連施設と連携し図書館外でも、図書館や資料に触れることができる機会を作り広く情報発信した。
評価	継続的に東基幹型包括支援センターや登美丘高校との連携を図り展示を行っているが、前例踏襲にとらわれず内容を精査し、より市民の課題解決につながるような事業を実施した。継続して実施していることで利用者に定着し、特に登美丘高校生徒の本の POP については「楽しみだ」という声もあり、読書推進につながっている。また、東図書館は、北野田駅からペDESTリアンデッキでつながれた駅直結型で、ビジネスパーソンにも活用していただけるように特色ある資料として「ビジネス書コーナー」を設置しているが、新たな連携により「ビジネス書コーナー」内の「ビジネス支援情報コーナー」を充実させ相互に広報できる体制を整えたことで、新しいビジネス情報や就業情報を継続して提供でき、今後、図書館の利用促進やビジネス支援を必要とする利用者の一助となることが期待できる。	
課題、改善提案等	継続的な連携と市民の課題解決・読書推進につながるような事業の実施。また、ビジネス支援についての知識を持つ職員の人材育成が必要である	

3. 図書館の利用促進につながる事業の実施	
サービスの具体的方向性	②くらしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
目的	・高齢者に寄り添う事業、また市民に身近なテーマの事業を実施することで、市民にとって使いやすく、身近な図書館づくりをする。
内容	・シニア世代等からよく問い合わせのある、スマートフォン等での図書館ホームページや電子書籍の利用についての講座を実施する。 ・認知症やがん、食生活など、市民のニーズに応じた身近なテーマについての情報を提供し、知識を深めることができる事業を実施する。
効果	くらしに身近でニーズに沿った情報を提供することで、図書館により親しみを感じてもらい、利用促進につなげる。
指標	・講座・事業開催数 ・参加者数
実施結果	・講座等実施回数 4 回（2 回は 2・3 月実施予定） ・認知症のテーマのブックフェアに合わせて「認知症についてのブックトークと もしバナゲーム体験会」は東基幹型包括支援センターと連携して実施。同時に専門的な知識をもつ職員に相談できるブースも設置した。また、相互の連携として東基幹型包括支援センターの事業「認知症の世界」を体験してみませんか？」に出向き、図書館資料の展示を行うことで図書館の広報にもつながった。 ・大阪大学文学部日本学専修と連携して実施した「聞かせて！ 1970 年万博のこと」では、事前に大阪大学で「地域の記憶—残す、つなぐ図書館」をテーマに図書館の役割や図書館で

		開催することの意義などについて学生たちに伝えたくて開催した。事業ではミニ講座「オーラルヒストリーってなに？」を開催し歴史をつづる意義について意識を深めるとともに、当時の様子を専門家や学生が聞き取り記録に残すオーラルヒストリーの手法を用いたイベントを実施、聞き取りには7人参加があった。 また、同時に政策企画部と連携し「大阪の博覧会タイムスリップ」としてブックフェアと資料展示を行った。資料の閲覧や貸出も多かった。 ・「図書館ホームページ活用講座」の実施を予定しており、主に高齢者をターゲットに図書館のホームページの基本的な操作や予約のやり方、電子書籍等について説明し利便性の向上につなげる。 ・「ひがし de ブックトーク」（オープン読書会）を3月に実施予定。当館利用者の4割を占める高齢者層の身近な課題に寄り添い、あわせて、医療・保健・福祉の専門職が情報提供を行うことで、図書館を場として医療・相談機関・地域との緩やかなつながり支援を行うことが期待できる。
	① 妥当性	市民の関心の高いテーマについての情報とともに、課題解決につながる機会を提供することは重要な支援である。
	② インパクト	高齢者が関わる事業が多いため、図書館ホームページや公式 X (旧 Twitter) などの SNS を利用しない広報をする必要がある。
	③ 効率性	専門機関や専門家などと関わりをもつことで、より知識を深めることができた。また図書館ホームページや電子書籍を知ってもらうことで、市民の利便性は高まる。
	④ 協働の視点	オーラルヒストリーの行事では市民と大学との協働により成果物を残すに至った。オープン読書会は、東図書館読書会の参画を得て実施予定。
評価	連携ブックフェアを開催するだけでなく、今年度は市民の関心の高いテーマや身近なテーマのものについて、専門家を含む関係機関と連携して講座・事業を3回実施したことで市民の課題解決に資することができた。「聞かせて！1970年万博のこと」では、高齢者と大学生の世代間交流も見られ、個々人の活動や交流の中から歴史・文化が紡がれていくことへの気づきを促し、読書・交流活動を掘り起こすきっかけとなった。あわせて万博関連の情報コーナーを設け、当時様子のパネルや関連資料を展示、貸出も多かった。参加者からは「大学生の活動に図書館で関われたのはよかった」、「歴史を語って残すのは自分たち高齢者の役目だと思っている」との感想があった。記録作成・活用の過程においても参加の機会を設けるなど、継続して取り組んでいく。 また、実施予定の「図書館ホームページ活用講座」では、カウンターでも問い合わせが多い内容について理解してもらうことで、利便性を図り、図書館の活用につながるが見込まれる。	
課題、改善提案等	インターネットを利用しない人へ情報を伝えるための取組を検討するなど、デジタルデバイドを解消するために、地域の人々と関わる部局や機関などとの連携を検討していく。	

4. ブックフェア及び書架展示の充実		
サービスの具体的方向性		①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	・図書館資料の活用を図り、市民が新たな本と出会うことで、読書に親しみ、図書館の恒常的なユーザーとなる機会を作る。	
内容	・近隣高校との連携を継続し、高校生のおすすめの本のコーナー等の活性化を図る。 ・展示スペースの増設を行い、図書館利用が少ない層向けのブックフェアを行う。	
効果	・身近な高校生が作成した POP を多数展示することで、ティーンズなど図書館利用が少ない市民の本への関心を高める。 ・東図書館の分担保存資料である読み物を中心として、書庫にある作品も含め、様々なテーマでブックフェアを実施することで、市民が名作や著名な作品と出会うきっかけとすることができる。	
指標	・ブックフェア実施回数 ・近隣高校との連携回数	
実施結果	・登美丘高校との連携を継続して実施、おすすめ本の P O P 展示を一新した。今まで展示したものについては、ファイリングし閲覧できるようにしており、利用が多くない青少年の読書傾向を知る手がかりともなっている。 ・東図書館で蔵書が充実している読み物を中心としたブックフェアの実施回数 2 回 書庫にある文学作品の活用・利用促進として、教科書掲載作品のブックフェア「あのときのつづき」を実施。貸出は好調であった。 「大阪の博覧会タイムスリップ」のブックフェアと資料展示の際には、1970 年当時埋められたタイム・カプセルに収蔵された収蔵品リストの中から文学作品を展示・貸出した。	
効果検証	① 妥当性	東図書館の資料の活用と、市民が新たな本に出会う機会を創出し、読書活動の推進につながっている。
	② インパクト	広報や SNS を活用するとともに、案内板を立てるなど来館者に認識してもらえるよう展示方法を工夫した。
	③ 効率性	貸出目的の来館でない人にも興味をもってもらえるよう、入口及び館内奥での展示もおこなったためよりたくさんの人に見てもらうことができた。
	④協働の視点	登美丘高校と連携して高校生の P O P 展示を実施している。
評価	継続して実施している登美丘高校生のおすすめ P O P は人気のコーナーであるが、今年度も連携を図り、100 冊の資料の入れ替えを行い、新鮮さを保つようになっている。P O P も含めた連携は 3 回実施した。 また、東図書館は読み物が充実している。開架スペースに限りがあることで書庫に配架されていた読み物について、市民が関心を持つテーマを検討し 2 回ブックフェアを実施した。図書館アンケートでは、「本や雑誌の種類や数」の満足度において、R4 年度 3.75→3.85 と上昇しており、ブックフェア等で資料を活用することで、市民が新たな本と出会う機会を作り、読書活動の推進に寄与していると考えられる。	

課題、改善提案等

市民が興味を持つようなブックフェアのテーマ設定のために、幅広い視野を持ち、時事等も踏まえた情報収集が必要である。

取組の様子



子ども司書の活動



保護者向け講座



ブックフェア





ビジネス支援コーナー

令和 5 年度の取組総括

- ・「子どもや青少年が読書への関心を深めることができる取組」として、子ども司書の活動を継続して実施し、「本の福袋」など利用者にも活動を周知することで、地域の読書リーダーとしての活動につながっている。また、北野田駅と連携して事業を実施した際には、事前に北野田駅長への質問募集を行い、講座後に展示するなど、再び図書館へ来館するきっかけを作ることができ、また展示においては「狭山暗渠の模型」を借用したり、『堺鐵道線路平面図』（中央図書館所蔵）等とともに地域資料を展示するなど、地域について興味をもってもらえる機会となり、子どもだけでなく大人にも地域資料等を P R することができた。
- ・「他機関との連携」については、継続して連携を図っているものに加え、新たに東図書館の特色ある資料である「ビジネス支援コーナー」を充実するために、産業振興局産業戦略部と連携し、ビジネス関係情報を継続して配置できるコーナーを設置。「ビジネス×図書館 ビジネス情報の調べかた」を作成し、ホームページで公開した。また、関連施設（S-cube）へビジネス関係資料を団体貸出し、図書館資料のコーナーを設置、併せてコーナーで図書館や図書館事業の広報を行ってもらうよう調整した。専門機関等と連携することで、市民のニーズや課題を知ることができ、相互に協力し合うことで、新たな利用者の獲得が期待できる。
- ・高齢者を含む行事等については、専門機関と連携することで市民の課題解決につながる講座や、シニアと学生が共に学び交流する機会を持つことができた。
- ・定量的指標では、すべての指標で昨年度比 100%を超えているが、利用者アンケートでは 49.4%の利用者が貸出をしなかったという回答であった。貸出以外を目的とした図書館利用者も含めて市民の課題解決や読書意欲を満たし、新たな本との出会いの機会を作る、またビジネスパーソンにとって情報収集の場として図書館が利用されることができるよう取組や連携を検討する必要がある。

図書館協議会委員の評価

令和 5 年度 西区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	255,367 点	242,364 点	94.9 %
区民千人当たり	1,904 点	1,818 点	95.5 %
予約点数	11,629 点	10,520 点	90.5 %
区民千人当たり	87 点	79 点	90.7 %
レファレンス受付件数	2,050 件	2,527 件	123.3 %
区民千人当たり	15 件	19 件	123.6 %
来館者数	117,638 人	116,395 人	98.9 %

※西区人口 133,343 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題

令和 4 年 1 月にオープンした 2 階「学びと交流の広場」の利用促進の取組や、他機関との連携事業に注力した結果、4 階図書館部分の来館者数の増加につながった。協議会からも良い評価と、連携強化や多様な団体への PR など取組継続への意見をいただいた。一方で新たな事業実施のため、運営体制に苦慮する場面もあった。始まった連携や事業は効率性を考えながら持続可能な形で実施し、通常の図書館サービスの低下を招くことがないように運営する必要がある。

今年度の目標

1. 「学びと交流の広場」の規定を整備し、広報を行うことで、学びと交流を必要とする利用者・利用団体の利用を促進する。【育む力・学ぶ力・創る力】
2. 医療機関・子育て関連施設・地域施設等と連携した事業実施、情報提供を行う。【育む力・学ぶ力】
3. いつ来館しても新鮮で、利用しやすい書架を維持するため、開架資料の除架を計画的に実行し、棚づくりを行う【育む力】

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 「学びと交流の広場」の規定整備と広報	
サービスの具体的方向性	⑧市民交流の場を作ります。
目的	「学びと交流の広場」と図書館施設の利用促進をはかる。
内容	・読書・学習席の環境整備。 ・区内幼保施設、子育てサロン等に対する「ほんのえき」利用モデル作成と周知。 ・ラーニングスペース利用規程の整備と広報。・図書館関係活動への場の提供。

効果	利用しやすい環境を整備し、利用を促進する。読書環境の充実や、子どもと一緒に安心して利用できる環境、市民交流の場の提供など、スペースの特質によってさまざまな効果が期待できる。	
指標	・読書・学習席の利用者数 ・ほんのえきの利用団体数及び利用人数 ・ラーニング A・B の利用団体数 ・図書館来館者数	
実施結果	・読書・学習席 新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行をきっかけに、運用を見直し、令和 5 年 6 月ラーニングスペース C の席数を 12 席から 16 席に増設。令和 5 年 7 月ラーニングスペースの机（6 台）を 3 人までのグループ利用可とした。昨年度同月比 120%の利用増（令和 4 年度 4 月～1 月 4285 人、令和 5 年度 4 月～1 月 5153 人）。 ・ほんのえき 定例事業の定着・活性化等の影響で、昨年度同月比 130%利用増（令和 4 年度 4 月～1 月 3412 人、令和 5 年度 4 月～1 月 4460 人）。団体の利用促進のため、4 階図書館利用も含めたサービス案内を作成。西区子育て支援関係者会議の場で広報を行った。 ・2 月末現在ラーニング AB の団体利用数 20（昨年度 13） ・図書館来館者数 前年比 98.9%	
効果検証	①妥当性	順調に利用者は増加している。
	②インパクト	図書館まつりなどの定例事業の活発化により、施設の周知が行われた。
	③効率性	制度設計に時間を費やしているが、効率的な運用ができるよう試行している。
	④協働の視点	ボランティア団体の協力による事業実施が施設の周知に寄与している。
評価	・読書・学習席の定着と、定例行事の活性化による利用者増で順調に利用者は増加している。新規利用登録者が 115%増(令和 4 年度 4 月～1 月 959 人、令和 5 年度 4 月～1 月 1103 人)。とりわけ 13 歳～18 歳（中高生世代）の新規登録者数が 155%増（令和 4 年度 4 月～1 月 107 人、令和 5 年度 4 月～1 月 166 人）となり、「学びと交流の広場」の開設により、若い世代の図書館利用に結び付いた結果となった。 ・ブックフェア等の多面展開などを行い、4 階図書館、2 階「学びと交流の広場」の相互利用を試みたが、4F 来館者数増加には結びつかなかった。2 階だけで利用が完結している利用者も図書館来館者であるが、読書推進につなげるためには、取組が必要である。	
課題、改善提案等	・西区内幼保施設、子育てサークルへの広報のターゲットを増やしていく。 ・今まで図書館とかかわりがなかったが、「学びと交流」のための活動をしているような団体に利用していただけるような取組やサービス提供を開始する。	

2. 医療機関・子育て関連施設・地域施設等と連携した事業実施、情報提供

サービスの具体的方向性	③さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
-------------	-----------------------------

目的	地域の知の拠点として、暮らしに役立つ資料・情報を提供する。
内容	・医療機関との連携による事業実施、ブックリストの作成等。【一部継続】 ・地域子育てサロン、保健センター等、主に子育て関連事業への職員派遣、資料提供等。【継続】 ・羽衣国際大学との連携による事業実施。【新規】 ・西区ブランド発信事業（西区政策推進室）への取組。【R4とは違う形で継続】
効果	・分担分野である医療情報の専門家と連携することで、より質の高い情報提供を提供できる。 ・様々な施設へ職員派遣を行うことで、読書活動を推進し、図書館利用を促進することができる。 ・「学びと交流の広場」を活用することで、取組 1 の達成にも寄与する。
指標	連携機関数
実施結果	○連携機関数 令和 4 年度 17 →令和 5 年度 20（実施予定含む） 医療連携・大学連携 5（堺市総合医療センター、羽衣大学等） ボランティア団体 6（おはなしふくろう、絵本のたまてばこ等） 庁内連携 4（学校指導課／学校図書館司書、健康推進課、社会福祉協議会／子ども食堂等） ・医療連携 ○総合医療センターとの連携 10 月「がんを知るミニ講座」を実施。看護師に講師を依頼。講座、相談参加者：のべ 10 人、満足度 83% ブックリスト「フレイル」「がん」（次年度「栄養」発行予定） テーマ選定、コラム寄稿等で協力いただく ○大阪府看護協会との連携 まちの保健室 月 1 回 のべ参加 73 人 ・子育て・子ども読書関連事業 ○ボランティア連携による定例事業の活性化。「図書館まつり」参加者：前年比 148%増 ○西区子育て支援関係者会議に参加し、令和 5 年度西区子ども家庭フォーラム「絵本で子育てをもっと楽しく」の講師の選定や交渉、フォーラムで使用する資料の提供等の協力を行う。 ○引続き地域共生推進課との連携として、月 1 回 Litto（放課後学習支援事業）へ会場提供 ・羽衣国際大学 令和 5 年 9 月「いろんなことばで絵本を楽しもう」を 4 年ぶりに実施。学生、ベトナムからの留学生の協力で、英語、ベトナム語の絵本の読み聞かせを行い、ベトナムの文化について語っていた

	く。10 代以下から 60 代以上の幅広い世代の 38 名が参加。アンケートでは「今後もこのような機会があることを望みます」といった回答が多く好評であった。 ・西区 浜寺公園開設 150 年記念フォーラムに西プロとして職員を派遣、中央図書館作成のパネルデータを提供。また、図書館においては令和 5 年 12 月に上記パネル展示とブックフェアを行う。	
効果検証	①妥当性	西図書館の分担分野である医療関係に関連した情報提供、子ども読書推進活動や、西区ブランド発信事業など、基本指針や西区の取組に寄与する連携を進めている
	②インパクト	今年度再開した羽衣国際大学との連携は多文化交流に関わるものであり、G7 の開催もあってインパクトがあった
	③効率性	継続して行っている事業に関しては、連携先との調整がスムーズになる、ノウハウが蓄積されるなど一部効率化しているが、新規事業や専門的なスキルが必要な事業には、時間と人員を費やしている
	④協働の視点	従来からの対組織及び図書館ボランティアとの協働を行っている
評価	・指標を連携機関数と定め、数はあまり変わらなかったが、昨年度と連携先や内容は異なるものとなった。また、連携先によって、事業の性質や頻度等異なるため、一概に計数するのはふさわしくなかった。指標のあり方を考えたい。 ・医療連携は、専門家との連携で質の高いサービス提供が継続できているが、特にブックリストの作成など、職員の高い資質が求められ時間もかかっている。 ・再開した羽衣国際大学との連携は双方にメリットがあり、事業としても好評だった。 ・子ども読書に関わるボランティアは熱心に取り組んでおられ、活動も活発化してきた。事業の参加者は増加傾向にあり、うまく連携できている分野である。 ・西区との連携は、地域資料関連にとどまっており、今後の展開を考える必要がある。	
課題、改善提案等	事業の精査と定例化等による効率化が必要である。 医療連携や、羽衣との連携による事業展開は、利用者ニーズを語りながら、継続していきたい。	

3. いつ来館しても新鮮で、利用しやすい棚づくり	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	開架資料を適切に管理し、利用者がいつ来館しても新鮮で利用しやすい書架を維持する。
内容	・飽和状態の開架資料について、出版後 10 年以上経過した資料を中心として書庫入れ等の除架を行い、計画的に移管や除籍を進める。 ・空いたスペースは、表紙が見えるように面展示のスペースとし、日常の配架や書架整理の際にメンテナンスを行う。

効果	・情報の古い資料を抜き、棚が空くことで、適切な情報を選びやすく、使いやすい書架が実現できる。 ・面展などの視覚的なアプローチで、いつ来館しても新鮮な興味を引く書架が実現できる。	
指標	・開架からの除架点数 ・新たに作成した面展スペース（資料数）	
実施結果	・開架より 6615 冊の資料を除架した。余裕の出来たスペースを活用し、令和 5 年 11 月から面展ブックエンドを設置開始。現在 30 点。ブックエンドに職員の似顔絵を貼り、それぞれの得意分野を反映させるよう試行している。	
効果検証	①妥当性	古い資料の除架により、利用者が適切な資料を手にとることができる
	②インパクト	面展は利用者が意図しない資料との出会いを期待して試行している。
	③効率性	古い資料の除架により、利用者が資料を見つけやすくなる
	④協働の視点	-
評価	貸出率の増加に反映しなかったが、開架資料の適切な維持は図書館サービス提供の根幹業務であり、継続が必要。面展に関しては、今後、利用者の意見などを参考に事業展開を考える	
課題、改善提案等		継続して実施

取組の様子



西図書館 2 階「学びと交流の広場」

令和 4 年 1 月にオープンした「学びと交流の広場」は、絵本をならべて親子がいっしょに読書を楽しめる「ほんのえき」、パーテーションを使用して様々なサイズの部屋としても使える「ラーニングスペース」などの場所があります。「ラーニングスペース」のうち、区切られていない部分と、部屋として使える「ラーニング C」を読書・学習席として利用できます。



がんを知るミニ講座＆がん相談



西図書館まつり（手づくりコーナー）



いろんなことばで絵本を楽しもう



書架を整理して余裕の出来た棚スペースを活用しての
面展示を実施

令和 5 年度の取組総括

- ・2 階「学びと交流の広場」については、順調に利用者数が増えている。また、子ども読書活動に関わる事業を実施することで、新たな利用者を獲得するというよい循環ができています。利用者のニーズを聞きながら、運用を適宜進めるとともに、ターゲットを定め、定期的な利用案内を行い更なる利用促進を図っていききたい。
- ・今年度も様々な連携先と事業を行った。医療連携や羽衣国際大学との連携など、人員と時間の必要な事業もあるが、利用者のニーズ、館の運営など全体のバランスを考えながら継続していききたい。
- ・今年度、開架資料の除架を集中的に行った。利用しやすい書架を維持するとともに、開始した面展等の取組を展開し、新鮮で魅力的な棚づくりを継続していききたい。

図書館協議会委員の評価

●

令和 5 年度 南区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	522,106 点	505,650 点	96.8 %
区民千人当たり	3,861 点	3,800 点	98.4 %
予約点数	39,181 点	37,788 点	96.4 %
区民千人当たり	293 点	284 点	96.9 %
レファレンス受付件数	14,059 件	13,868 件	98.6 %
区民千人当たり	105 件	104 件	99.2 %
来館者数	232,867 人	312,789 人	134.3 %

※南区人口 133,049 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

※南図書館、梅分館、美木多分館を含む

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題
・分担分野の専門的資料の収集の他、日本語学習資料、英語多読資料など特色のある資料の収集を行ってきた。資料収集の継続に加え、利用者が新たな資料に触れる機会を増加させていく必要がある。 ・子どもが主体的に参加できるイベント、市民が歴史文化に触れる講座を実施し好評であったが、さらに子どもが楽しみながら知的好奇心を高められるイベントや、南区の歴史や文化を学べる講座の実施が求められている。

今年度の目標
「ひとを育み、共に学び、未来を創る力を市民とともに生み出す知の拠点」を実現するため、「南区基本計画」・「SENBOKU New Design」に基づき、地域の歴史文化にふれる機会の拡充や子どもの読書活動の推進を通じて区の子育て、教育環境の充実に努める。 1. 地域の知の拠点としての蔵書構築、市民と資料を繋ぐ活動に取り組む。【育む力・創る力】 2. 歴史や文化にふれる機会を拡充するとともに、区内関連機関等との連携に努める【学ぶ力・創る力】 3. 子どもの知的好奇心を高め、図書館を楽しく利用できる機会を充実させる。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 地域の知の拠点をめざした多様な資料の収集、提供	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	利用者が新鮮で魅力的な資料と出会う機会を設ける。 南図書館では課題解決に役立つ資料、特に多文化共生に関する資料を充実し提供。
内容	・分館における共有資料方式の試行実施により、分館利用者が様々な資料に出会う機会とする。 ・日本語学習資料、英語多読資料、外国語資料等特色ある資料を収集する。 ・利用者が来館するたびに資料との新たな出会いを感じてもらえるようミニブックフェア等、資料を紹介するイベントを開催する。
効果	・共有資料方式により、これまでより多くの資料との出会いの場となることで、分館の魅力を向上する。

	・南図書館では多様な資料との出会いの機会を設けることで、新たな気づきや学びを得られる場とする。	
指標	ブックフェア実施回数、利用者アンケート満足度調査	
実施結果	・分館の新刊資料について、令和 5 年 7 月後半より共有資料として受入を開始。令和 5 年 1 月時点で約 820 点を共有資料とし、窓口への返却時の転送のほか、定期的に各分館を巡回する運用を行っている。 ・日本語学習資料 49 点、英語多読資料 62 点、外国語えほんを 20 点購入し、利用者が普段書店等で触れる機会の少ない資料の充実を図った。 ・南図書館においては能登半島地震を受けた防災をテーマにしたミニブックフェアなど、利用者が興味を持つと思われるテーマでのミニブックフェアを、ブックトラック、低書架の上のスペースなどを活用し令和 6 年 2 月までに 9 回実施した。また、子ども司書によるおすすめ本等の展示貸出も実施。 分館においてもミニブックフェアを行い（柵 7 回、美木多 2 回）、合わせて SNS での広報も行った。	
効果検証	①妥当性	分館において利用者が直接手にとれる資料の種類増加、普段書店等で触れる機会の少ない資料の充実、時宜に合わせたブックフェアにより、利用者が新たな資料と出会う場を作ること読書環境の充実を図っている。
	②インパクト	南図書館、柵分館、美木多分館で毎月のブックフェア（一般向けと児童向け）を広報さかいに掲載し、実施している。ブックリストのホームページ掲載も実施。ミニブックフェアについては通常のブックフェア棚だけでなく、ブックトラック、書架の上のスペースなどを活用し、表紙を見せて展示するなど、利用者の興味を引くように工夫した。また、SNS でも広報を実施した。
	③効率性	分館共有資料について、資料を巡回させることで、新刊をこれまでより多くの利用者に手に取っていただく機会を作ることができた。
	④協働の視点	南区さかい子ども司書の活動として、POP の作成展示、おすすめ絵本の面展示、本のおたのしみ袋の作成展示を実施。
評価	・分館共有資料に関して、点数の増加に合わせてコーナーの新設、SNS で発信など、認知度を高める取り組みを行った。結果、利用者アンケートの「本や雑誌の種類や数」の満足度（平日・休日合計）を昨年度と比較すると、柵で 3.09→3.48、美木多で 3.28→3.48 と上昇している。 ・ミニブックフェアについて、昨年度の 6 回実施から、1 月時点で 12 回実施に回数増、またミニブックフェアを行っていない期間には「近隣施設からのおすすめコーナー」（後述）の出張展示を行い、利用者が様々な資料に出会う機会とした。	
課題、改善提案等	ミニブックフェアについて、9 類の資料をテーマとしたものが多かったが、時事問題等、より幅広く機動的に行えるよう改善を行いたい。	

2. 歴史や文化にふれる機会をつくり、地域とのつながりを強化する	
サービスの具体的方向性	⑨堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。
目的	堺の歴史や文化にふれる講座を開催し、地域の魅力を発信する。
内容	・南区の地域の歴史に触れるきっかけとなる講座の実施。

	・南図書館の近隣施設と連携した展示等の実施。	
効果	・歴史文化市民講座については、南区に関わるテーマを設定することで、地域への関心を高める。 ・南区の読書活動に係る施設等と連携することで地域とのつながりを強化する。	
指標	参加者数、参加者アンケートの満足度 連携した機関数、および団体数	
実施結果	・南区の歴史、文化に関する講座として堺歴史文化市民講座「地域の営みに触れる ―美木多の史料調査から地域史の学びへ―」を実施。参加者 47 人（昨年度 16 人）、アンケート結果で南区への関心が「とても高まった」「高まった」を選ばれた人は 45 人中 38 人。 ・近隣施設との連携事業として、近隣施設からのおすすめ本コーナーを設置。令和 5 年 7 月より大連公園内の私設図書館「おおはす図書部」からのおすすめ本(245 タイトル)を展示貸出、令和 5 年 11 月より大阪健康福祉短期大学の認定絵本土講座受講生からのおすすめ本(32 タイトル)を展示貸出。あわせて、認定絵本土講座受講生による絵本読み聞かせ会も実施。 ・令和 5 年 12 月には堺市立ビッグバンで「いろいろなことばでえほんをたのしもう！」を実施。国際課（国際交流員 2 名）が英語、ドイツ語、中国語の読み聞かせに協力。図書館職員は、日本語、フランス語、ドイツ語での読み聞かせを行った（参加者のべ 46 人） ・令和 6 年 1 月より南区役所に新たに設置された区民交流スペース「みみちゃんサロン」に、閲覧用の絵本（寄贈本から選定）を提供。	
効果検証	①妥当性	講座により歴史や資料調査についての関心を高め、また近隣施設等の連携により、お互いに施設を紹介するなど、地域の魅力を発信している。
	②インパクト	近隣施設からのおすすめ本コーナーについてはコーナー外でもブックフェアを実施し、施設パンフを設置するなどの広報を行った。 外国語えほんの読み聞かせに合わせて外国語えほんを追加購入し、国際交流員に読み聞かせの練習を依頼した。国際課ニュースレターでの広報も実施。
	③効率性	外国語えほんの読み聞かせはビッグバンを会場として実施することで図書館、ビッグバン双方で施設の広報となった。
	④協働の視点	堺歴史文化市民講座はサポーターの協力を得て当日運営を行った。 近隣施設からのおすすめ本コーナーについてはボランティアで運営しているおおはす図書部、大阪健康福祉短期大学の協力で作成した。調整にあたり泉北ニューデザイン推進室にも協力を得た。 外国語えほんの読み聞かせはビッグバンより会場提供、広報協力、国際課より国際交流員の派遣の協力を得て実施した。
評価	・南区の歴史について学ぶ機会となる講座を実施。参加者 45 人のうち 31 人が、南区住民。内容について、南区への関心が「とても高まった」「高まった」を選ばれた人は 45 人中 38 人。「地域史料保存の意味がよく理解できた」「地域愛が高まった。地域の歴史資料（文化）が現地で保存する体制が整ってうれしい」などの感想があった。 ・おおはす図書部、大阪健康福祉短期大学、大学生、ビッグバン、国際課、泉北ニューデザイン推進室、南区役所区政企画室との連携事業が実施できた。近隣施設からのおすすめ本コーナーでのパン	

	フも配布、健康福祉短期大学で絵本土養成講座を行っていることの発信、ビッグバンでの事業実施による施設 PR 及び国際交流員の活動紹介など、地域や市の魅力を発信することができた。
課題、改善提案等	引き続き、近隣施設との連携を図る。

3. 子育て支援サービスの充実	
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	区の重要取組のひとつである「子育て・教育環境の充実」をふまえ、子どもの知的好奇心を高め、図書館を楽しく利用できる機会を充実させる。
内容	・子どもの知的好奇心を高め、興味を持って主体的に参加できるイベントの実施。 ・子どもと家族が楽しめるイベントとして、南区各館でおたのしみフェアを開催。 ・子育てサークルに赴き、親子でふれあいながら絵本の楽しさを実感してもらう。 ・図書館のおはなし会や読み聞かせ会に協力していただいているボランティアグループを対象に、役立つ知識や技術を伝授するボランティアステップアップ講座を開催する。
効果	・イベントを通じて、子どもが資料、図書館に出会う機会とする。 ・ボランティアグループの知識や技術を向上させることで、おはなし会や読み聞かせ会のさらなる充実を図る。
指標	参加者数・参加者アンケートの満足度
実施結果	・子どもの知的好奇心を高めるイベントとして「漢字で謎解きゲーム」を令和 5 年 8 月と令和 6 年 2 月の 2 回実施、参加 36 人（8 月 20 人、2 月 16 人）。アンケート結果では「とてもおもしろかった」が 31 人、「おもしろかった」が 5 人と好評だった。8 月実施の際に「またやってみたい」の感想が複数聞かれたことから、2 月に再度実施することとしたもの。2 月にはケーブルテレビの取材も入った。 - また、外国語えほんの読み聞かせ「いろいろなことばでえほんをたのしもう！」を令和 5 年 12 月に実施、参加延べ 65 人（えほん広場 19 人、よみきかせ参加 46 人）。読み聞かせの合間に、絵本に出てきた動物の鳴き声や挨拶を外国語で表現する参加型の遊びを入れ、盛り上がり、外国語を使うイベントが他にあるかの問い合わせや、もっと開催してほしいという要望などが聞かれた。 ・南区さかい子ども司書（5 名）の活動として、図書館の仕事体験のほか、おたのしみフェアでの読み聞かせ、本のおたのしみ袋、おすすめブックリストの作成などを行った。 ・ボランティアの協力を得ておたのしみフェアを開催。南図書館では参加延べ 332 人。同じくおたのしみフェアとして梅分館では令和 5 年 7 月に「マジック・ショー」（参加 26 人）、11 月に「しかけ絵本であそぼう」（禁帯出利用 116 回、貸出利用 58 点）、美木多分館では 12 月に「えほんをたのしもう」（絵本 90 点展示、参加 20 人）を実施。 ・「ふるさと納税親子いっしょにえほんひろば」として 4 施設を訪問、他にも 1 施設に絵本講座の講師として赴いた。小学校、中学校それぞれ 1 校に選書支援、また小学校 2 校、中学校 1 校に巡回訪問を実施。 ・ボランティアステップアップ講座として「楽しい手あそび～子どもとの距離を縮める方法～」を実施。参加 43 人。参加者アンケート満足度は高く(93%)、「子ども達の前で、早速やってみたい」「しっかり覚え

	て役に立てたい]などの感想があり、手遊びの楽譜について問い合わせがあるなど、参加者の学びにつながった。	
効果検証	①妥当性	楽しみながら漢字や外国語に触れるイベントは知的好奇心を高める効果があったと考えられる。
	②インパクト	おたのしみフェアは事前にワークショップ原画展をはじめ、開催予定の行事に関する展示をロビーで行い、屋外道路からも開催予定が見えるように掲示するなど、来館者への PR を行った。ディスプレイや打ち合わせ等にボランティア団体が積極的に参加することで、イベントへの意欲を高めることができた。 毎月のおはなし会等のイベントは子育てアプリのプッシュ通知で随時発信した。 2 月実施の「漢字で謎解きゲーム」にはケーブルテレビの取材が入り、地元のトピックスとして放送および配信が予定されている。
	③効率性	おたのしみフェア「ワクワク工作」では子どもが作った作品を撮影、HP に掲載することで、図書館 HP の PR を行った。 ボランティアステップアップ講座は手あそびや歌など実践的な内容で行い、終了後は HP で参考図書を紹介し、復習などに役立てられるようにした。
	④協働の視点	おたのしみフェアはボランティア団体に加え、子ども司書、絵本士養成講座受講中の大学生などに協力を得て行うことができた。
評価	ゲーム性のあるイベントやワークショップなど、参加型の楽しめるイベントを行うことで、子どもが楽しく図書館を利用する機会となった。	
課題、改善提案等	イベント類の事前広報については様々な手段で早めに行うことが必要。	

取組の様子



ミニブックフェアの例



近隣施設からのおすすめ本コーナー



「いろいろなことばでえほんをたのしもう！」



おたのしみフェア「ワクワク工作」

令和 5 年度の取組総括

昨年度の評価を参考に、特徴的なコレクション収集の継続、南区の地域性をテーマとした講座や近隣との連携、知的好奇心をくすぐり楽しめるイベントの開催等を行った。

個別の取組概要は次の通り。

1. 分館で共有資料の運用を開始。アンケート結果では資料の種類や数に関する満足度のポイントが上昇している。

南図書館では日本語学習資料、英語多読資料を継続して収集。

ミニブックフェア等、利用者に資料を紹介できるよう取り組んだ。

2. 南区をテーマとした歴史文化講座を実施し、地域の歴史について学ぶ機会とした。

近隣施設との連携により、展示やイベントを行うことで双方の P R を行うことができた。

3. おたのしみフェアをはじめ子どもが参加して楽しめるイベントを実施。また、施設訪問、学校図書館への選書支援、ボランティアに向けてはステップアップ講座を実施し、子どもの読書環境の充実に向けた活動を行った。

図書館協議会委員の評価

●

令和 5 年度 北区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	394,105 点	382,033 点	96.9 %
区民千人当たり	2,485 点	2,416 点	97.2 %
予約点数	19,759 点	20,502 点	103.8 %
区民千人当たり	125 点	130 点	104 %
レファレンス受付件数	4,688 件	5,539 件	118.2 %
区民千人当たり	30 件	35 件	118.5 %
来館者数	153,938 人	154,927 人	100.6 %

※北区人口 158,098 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・子育て世代の多い北区の図書館として、子育て支援サービスを継続して実施していく必要がある。
- ・昨年、一昨年の養成講座によって認定子ども司書は増えつつあるが、今後も定期的に活動していく場の確保が必要である。
- ・区民が北区の歴史文化について愛着をもてるような図書館事業を実施していくことが求められている。
- ・児童サービス、子育てサービス以外の図書館サービスについても市民に見える形となるよう発信していく必要がある。

今年度の目標

- 子育て世代を中心としながら、高齢者や児童・生徒に対する資料・情報提供を積極的に行っていく。
- ・子育て支援情報コーナーを充実させ、他部局と連携しながら、サービスを実施していく。【育む力・学ぶ力】
 - ・子ども読書活動推進のため子ども司書養成講座を行い、学年を超えた読書活動や交流を促していく。【育む力・学ぶ力】
 - ・北区をはじめとする堺市の歴史文化について、積極的に資料を収集するとともに情報提供していく。【学ぶ力】

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 子育て支援サービスの充実	
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	子育て世代の課題解決に役立つ資料・情報の提供
内容	・北図書館の特色ある資料としての子育て支援関係資料を積極的に収集 ・子育て支援情報コーナーでのブックフェアを、前年度より 1 回の期間を長く設定して実施 ・子育てフェスタをはじめ関係機関と連携した事業の実施 ・参加者の増加に対応した絵本の読み聞かせ会の拡充 ・子育てサークルでの読み聞かせ会の実施

効果	子育て支援情報コーナーの充実、子育てに関する地域情報の提供及び各種行事の実施によって子育て世代の図書館利用の増加が見込める。	
指標	・子育て支援情報コーナー資料（他館からの取り寄せ分も含む）の貸出点数 ・絵本のよみきかせ等の行事の参加人数	
実施結果	●子育て支援情報コーナー資料受入・貸出点数 受入点数 252 点(子育て支援情報コーナー約 3,000 点) 貸出点数 6,364 点（前年度 8,841 点）全館合計 33,562 点（前年度 45,707 点） ※令和 6 年 1 月 11 日現在（前年度分:令和 5 年 3 月末時点） ●子育て支援関連ブックフェア 保健センターとの連携ブックフェア「親子の健康」、子育て世代対象のビジネス本をはじめ、1 回につき 1 ～2 か月程度で 8 回実施。 ●絵本の読み聞かせ会の拡充 第 3 木曜午前に実施。新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後は事前申し込み不要とした。これまで 1 回だけ行っていたものを同じ内容で 30 分ずつ 2 回行うようにした。 19 回 204 人（令和 5 年 12 月末現在） ※北図書館フェスタ内の開催も含む。昨年度は 12 回 143 人。 ●北区役所主催「北区子育てフェスタ」（日時：令和 5 年 12 月 10 日開催 場所：北花田イオンモール）への参加 ・えほんのひろば 参加人数 193 人 図書館紹介リーフレット配布 120 部 ・えほんのよみきかせ 午前、午後 2 回実施 参加人数 100 人 ・おすすめ本の紹介パンフの作成と紀伊國屋書店での特設コーナーの設置 50 部作製配布 参加者計 293 人(前年度比 147%増)。 ●「本の福袋」実施 絵本 2 冊を 1 セットとし、英字新聞でラッピングして提供。赤ちゃん向け 20 セットと幼児向け 23 セットを準備した。1 月 5 日から開始し、なくなり次第終了としていたが、4 日間で全て貸出された。 ●子育てサークルでの読み聞かせ「親子いっしょにえほんひろば」 2 回実施 7 月 14 日きらら保育園新金岡ルーム（大人 8 人 子ども 15 人） 1 月 18 日五箇荘小学校区子育てサークル（大人 11 人 子ども 11 人）	
効果検証	①妥当性	子育て世代が多い区の図書館として支援コーナーの充実や参加しやすい行事の実施は必要。
	②インパクト	子育て支援課を通じて北区内の子育てサークルに北図書館紹介リーフレットやふるさと納税事業のチラシの配布を行った。
	③効率性	赤ちゃん向け絵本の読み聞かせを同じ内容を 2 回連続で行うことで、定員を 2 倍に増やす効果があった。
	④協働の視点	子育てフェスタのおすすめ本の紹介パンフの作成にはおはなし、読み聞かせボランティアをはじめ紀伊國屋書店にも協力をいただいた。

評価	子育て支援関連ブックフェアでは令和 6 年 1 月に子育て世代対象のビジネス本のブックフェア実施。これまでに扱ったことがない分野だったこともあり好評だった。 絵本の読み聞かせ会の拡充により参加人数が増加した。また子育てフェスタの参加人数も昨年は子育て支援課と共同ブースだったが、今年は 1 ブースを運営して実施したため大幅に増加。 本の福袋についても昨年より広報を強めたことでわずかな期間で全てを貸し出すことができた。
課題、改善提案等	子育て支援情報コーナーの資料についてはブックフェアで好評だった分野について次年度の蔵書管理計画に反映し充実を図る。 絵本読み聞かせ会をはじめとした各種行事について徐々にコロナ以前の形に戻つつあるが、それぞれに協力していただくボランティア団体、関係機関と協議してより効果的な手法を探っていく必要がある。 北区子育てフェスタでの読み聞かせはイオンでの開催ということで、参加者が多く見込める点が魅力だが、反面周りの音が大きくてマイクを使っでの読み聞かせになり、集中しづらいという短所もある。会議室的な部屋での開催も検討していく必要がある。

2. 子ども読書活動の推進	
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	読書活動を通じて、子どもが自ら考え、問題を解決していく能力を身に付けることを支援する。
内容	・さかい子ども司書養成講座の実施。 ・講座実施後、先輩子ども司書も交えての活動を定期的実施。 ・おはなし会の参加者数を増やすため、ボランティアの小学校訪問に合わせた行事広報や館内広報等を実施。 ・ティーンズエリアのミニブックフェア実施および刊行物発行。
効果	・子ども司書活動を実施することで子どもが主体的に読書に取り組むことができる。また先輩子ども司書が新人子ども司書に指導することで、これまで学んだことをより深く理解することができ、今後の活動に活かすことが期待できる。 ・おはなし会の参加が増え、参加した子どもが読書に親しみを持つことで、図書館の利用促進につながる。 ・青少年に魅力的な棚づくりや情報提供を行うことで利用を促進する。
指標	・さかい子ども司書養成講座の受講者数と満足度 ・さかい子ども司書活動の参加者数と満足度 ・おはなし会の参加人数 ・ティーンズエリアブックフェア回数、刊行物発行回数
実施結果	●子ども司書養成講座の実施 8 人参加。 ●子ども司書活動 年 4 回実施。参加者延べ●人参加 ●おはなし会の参加人数。145 人。16 回 おはなし大会 2 回 26 人※令和 5 年 12 月末現在 ●図鑑コーナーの設置

	昨年設置した調べるコーナーに 29 冊図鑑を追加し、図鑑コーナーを設置。これまで調べ学習用資料として館内閲覧としていた図鑑について貸出可能なものを追加した。 ●ティーンズエリアブックフェア 5 回と資料紹介 6 回実施	
効果検証	①妥当性	子ども司書活動をはじめ、児童が主体的に参加することで図書館の積極利用につながる。
	②インパクト	それぞれについて図書館 HP、堺市広報、公式 X（旧 Twitter）で告知した。
	③効率性	様々な児童向け事業を行うことと児童の調査用資料コーナーの拡充によって、より効率的な児童の読書活動推進に資する。
	④協働の視点	今年度は子ども司書活動について、サポーター倶楽部の協力を得た。
評価	おはなし会は今年度、これまでの申込制で月 1 回であったところから、申込不要の月 2 回になった。参加者数も昨年度の 75 人から 145 人と増加している。 子ども司書活動は今年度も 4 回実施。子ども司書のおすすめ本を児童コーナーに展示する「一箱本だなを作ろう」をはじめ「読書会をしよう！」「司書の仕事ちよこっ体験」等、子ども司書の意見も聞いて取り入れながら企画している。アンケートの結果は概ね好評で、特に「一箱本だなを作ろう」では全員がとても楽しいと回答。今年度も 8 人が認定されているので、今後もより多くの子どもたちが図書館で活動してもらえるよう工夫していく。	
課題、改善提案等	おはなし会について、月 2 回に増やしたが、コロナ前はほぼ毎週行っていた。次年度からは毎週開催及びより参加者数を増やすために利用者数が多い土曜午前の開催も検討する。	

3. 地域の歴史文化へ市民の関心を高めるための情報提供		
サービスの具体的方向性		⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
目的	北区にはニサンザイ古墳、イタスケ古墳や百舌鳥八幡宮、華表神社などの史跡が多数ある。これらの魅力を伝え、関心を高めてもらうことで地域への愛着を深め、図書館利用に繋げる。	
内容	・北区資料をはじめ、地域資料の寄贈要請も含めた積極的収集。 ・北区関係地域資料を中心にブックフェアを行う。 ・堺歴史文化市民講座・堺の歴史パネル展を実施する。	
効果	・北区に関する資料をより知ってもらうことで、地域への知的好奇心を刺激することができる。それが継続的な地域への探求心を高め資料利用に繋がることが期待できる。 ・歴史文化市民講座と関連史跡の写真展示を実施することで市民の興味関心を刺激し、市民同士の交流につなげていく。	
指標	・北区関係資料の受入点数 ・堺歴史文化市民講座の参加人数と満足度	
実施結果	●堺歴史文化市民講座の実施 令和 5 年 11 月 11 日（土）14:00-15:30「守られてきた神仏の森」講師渡辺弘之氏（京都大学名誉教授）	

	定員 45 人に対し、申込者数 45 人当日参加 41 人。社寺と森林、樹木の関係について講義された。 ● 堺の歴史パネル展の実施 堺歴史文化市民講座と同日会場前のエントランスホールで実施。10:00—16:00。百舌鳥古墳群の写真、地域資料デジタルアーカイブ掲載の資料、堺メモリー倶楽部作成の「堺大観」今昔写真などを展示。参加人数 83 人。 ● 北区関係資料の受入点数 4 冊受入。北区在住の方が作成した資料が 2 冊受入された。 ● 北区関係資料ブックフェアの実施 堺歴史文化市民講座開催の 11 月に行った。当館作成の「北区を調べよう！地域資料ブックリスト」に記載の資料を中心に 100 冊程度展示した。	
効果検証	① 妥当性	地域の歴史に関する興味を持ってもらうことで、地域への愛着を深め、図書館利用に繋げる。
	② インパクト	今回の講座は自然がテーマだったので、公園協会や公園整備課にチラシ配布を依頼。また、環境共生課に堺いきもの情報館イベントページにて案内を依頼。
	③ 効率性	当日は北図書館フェスタと同日開催であり、子ども連れの利用者にも写真展示を見ていただけた。普段関心のないテーマに触れることでより興味の幅を広げてもらえる。
	④ 協働の視点	講座及び写真の展示について堺図書館サポーター倶楽部の協力を得た。
評価	講座では社寺と森林、樹木の関係について講義された。直接堺に関わる話は少なかったが、堺の歴史を知る上でも社寺の歴史は重要であり、今回のテーマと共通する問題を抱えている。参加者の満足度も 91.1%と高く、今後地域史の調査を行なおうとする時の基礎知識、基礎認識の向上につながった。 北区関連資料は今年度受入冊数 4 冊と少なかったが、北区在住の方が作成した資料が 2 点（溜池の研究に関する資料と民話に関する資料）あったので、今後の調査に役立つことが期待される。	
課題、改善提案等	歴史文化市民講座を北図書館フェスタと同日に開催するのは来館者の幅を広げる意味では効果的であるが、前日、当日の運営の体制は厳しくなる。事前の準備をより整えていく必要がある。パネル展示は多くの方に見に来ていただけたが、講座当日のみでは労力に対する効果が少ない。もし行うなら 1 週間程度は展示しておきたい。	

取組の様子



北区子育てフェスタでの読み聞かせ、絵本のひろば（北花田イオンモール）



堺歴史文化市民講座と堺の歴史パネル展



オレンジの本棚



親子いっしょにえほんひろば

令和 5 年度の取組総括
今年度はコロナ禍に縮小した定例のおはなし会や読み聞かせ会の拡充に努めた。今後もボランティアグループと協議し、よりよい事業のあり方を考えていきたい。 昨年より行っている子ども司書活動。子ども司書養成講座を一過性のものとせず、定期的に活動を行うことをめざす。子ども司書の読書に関する知識、意欲を育てていきたいと考え、今年度も昨年とは違う内容で 4 回行った。今後も養成講座と活動で子どもたちの読書活動を支援していく。 北図書館では子育て支援情報コーナーが堺市で最初に設置され、子育て関係資料の貸出も他の館よりも多いということもあり、子育て支援サービスを中心に運営している。それに関連して子ども読書にも力を入れて、上記子ども司書活動を行い、参加人数も増加している。しかし、実際の利用では高齢者の利用も多く、子育て世代、児童以外へのサービスを考えていく必要があると考え、認知症に関するコーナー「シニアと認知症にやさしいオレンジの本棚」を令和 5 年 9 月に設置した。現在 148 冊。その内、新刊として 25 冊をコーナー用に購入。また北基幹型包括支援センターとの連携として、コーナーへのチラシの配架や「認知症家族の交流会」等で図書館資料の展示を行った。さらに課内研修「認知症サポーター養成講座」では講師をセンターの保健師に依頼し、職員の認知症への理解を深めることに努めた。 これからも子育て世代、児童サービスは中心に据えながら、それ以外の層へのアプローチも考えていく必要がある。
図書館協議会委員の評価
●

令和 5 年度 美原区図書館の取組状況

定量的指標	令和 4 年 12 月末	令和 5 年 12 月末	前年度比
貸出点数	205,025 点	187,355 点	91.4 %
区民千人当たり	5,536 点	5,089 点	91.9 %
予約点数	8,909 点	8,710 点	97.8 %
区民千人当たり	242 点	237 点	97.6 %
レファレンス受付件数	5,004 件	3,950 件	78.9 %
区民千人当たり	136 件	107 件	78.8 %
来館者数	80,849 人	79,702 人	98.6 %

※美原区人口 36,816 人（令和 5 年 4 月 1 日推計）

令和 4 年度図書館サービス評価を踏まえての課題

- ・新型コロナウイルス感染拡大前（平成 30 年度）と比した利用（来館者数、貸出点数等）の減少が全館で最も大きい。子どもや子育て世代の減少、高齢者比率の増加など区の課題ともリンクする問題である。
- ・行事を含む図書館サービスをコロナ禍以前の状態に戻しつつ、利用者や職員、図書館ボランティアの安心・安全に配慮した現時点での最善の方策のもと実施することが求められている。
- ・商業施設の増加など周辺環境の変化も念頭に、連携や広報を引き続き強化する必要がある。

今年度の目標

利用の増加を第一の目標とし、それに向けて利用者満足の上昇、新規利用者の獲得のために以下の通り目標を設定する。

1. 子ども対象の行事を含め、各種行事を安心・安全を担保した形で実施する。より多くの人に事業内容が伝わるよう広報にも工夫をする。
2. 従前から利用の中心であったシニア層をターゲットとした事業を実施する。介護をテーマにした課題解決支援講座を実施するほか、他機関との連携による情報提供や、資料提供を行う。
3. 今まで利用したことがない人に図書館の存在を認識してもらう機会を拡げるため、庁内他部局や施設・学校園、近隣の商業施設との連携と、戦略的な広報をおこなう。

【目標に向けた具体的取組内容】

1. 各種行事の実施と効果的な広報	
サービスの具体的方向性	④子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
目的	子どもや保護者、行事に参加する人たちが、行事を通して有意義な時間を過ごすことで、本や読書に親しむとともに、場としての図書館の意義を認識してもらえるようにする。

内容	秋以降に予定している空調設備の大規模な工事の進行状況を踏まえて、柔軟に各行事を実施する。行事の広報にあたってはより効果的な内容・方法を検討して行う。 ・毎年 11 月に実施していた美原図書館まつりの実施時期を、工事の影響のない夏休み期間に変更し、プログラムを厳選して実施する。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 年以上休止していた「おりがみであそぼう」を再開し、定例行事として定着させる。 ・7 年目になる美原図書館ティーンズ POP ふえすていばるの応募資格を拡充し、ティーンズと本を繋げるという趣旨はそのままに、より幅広い層に親しめる内容にする。 ・昨年度実施したパネル展「手紙にみる伊東静雄」を、美原図書館に来館できなかった人にも見てもらえるよう、図書館ホームページでデジタル展示として公開する。	
効果	行事への参加を通じて本や図書館に親しみを持ってもらい、図書館利用を促進する。 来館しなくても図書館の資料にアクセスする機会を提供することで、地域理解や図書館利用の契機とする。	
指標	定例行事の参加者数（前年度比の増加） 「手紙にみる伊東静雄」ページの作成、アクセス件数	
実施結果	・例年 11 月 23 日に実施している図書館まつりを令和 5 年 8 月 11 日に実施した。空調の都合で利用できる部屋が限られているため、「図書館まつりミニ」と題して昨年度は 6 つあったイベントを 4 つに絞り開催した。 ・11 月には代替事業として、3 冊の児童書の中が見えないようにパックして貸し出す「ほんのおたのしみパック」を実施した。パックの作成には今年度の子ども司書養成講座受講者の協力も得た。 ・「おりがみであそぼう」を 6 月から図書館サポーターの協力を得て再開し、毎月 1 回第 3 木曜日に実施した。 ・10 代から POP を募集していた美原図書館ティーンズ POP ふえすていばるを、「中高生におすすめの本」「中高生の時に読みたかった本」を 10 代以上であれば誰でも POP を作って参加できる形に変更した。 ・「手紙にみる伊東静雄」で取り上げた作家・文筆家の著作権継承者に連絡を取り、許諾を得た人の手紙の画像データをもとに図書館ホームページ上で公開するページを作成した。	
効果検証	①妥当性	子どもや保護者、青少年、地域の歴史や文学に関心のある人に対し、図書館や本に接する機会を作る事業である。
	②インパクト	行事については図書館ホームページ、SNS での広報のほか、子ども向け行事カレンダー「イベントじょうほう」を区役所の子ども関連施設・所管、ららぽーと堺の図書館情報コーナーに配架して図書館館外でも情報を得ることができるようにしている。
	③効率性	小さな子どもと保護者、青少年に地域の図書館を知ってもらい利用してもらうために、各種行事は良い契機となる
	④協働の視点	図書館まつりにはおはなしや読み聞かせ、音訳、読書会など図書館で活動するボランティアの協力を得ている。「おりがみであそぼう」は図書館サポーターが参加者に折り紙を教える役割を担っている。

評価	・「図書館まつりミニ」には 4 種のイベントに延べ 72 人が参加した。6 種に対して 85 人の参加があった昨年度に比べ、イベント当たりの参加者数は増加している。読み聞かせ会やおはなし会のほか、「美原かるたで遊ぼう！」を開催し、遊びながら郷土を学ぶ機会とした。会場都合でやむなくプログラムを絞ったが、改めてボランティア団体とともに内容を精査する機会になり、かるたのように新たなアイデアも出すことができた。 ・「ほんのおたのしみパック」は 10 日間で 44 パックのうち 39 パックが貸し出された。蔵書点検直前の土日には特によく利用された。 ・「おりがみであそぼう」は図書館サポーターの協力を得て定期的に開催し、12 月までに延べ 24 人が参加した。講師役にはずっと来てくださっている人のほか新たなサポーターも参加している。 ・美原図書館ティーンズ POP ふえすていばるは、協力する高校の方針変更等により、結果として、応募作 40 件のうち 10 代からの応募は 1 件だけで他はすべて 20 歳以上の人からになった。区内の中学校には、ちらしや要項を発送する際に個別に電話で教頭先生に趣旨を説明して、図書室だけでなく関わりのある委員会活動・部活動の生徒への配布を依頼するなどしたが、結果に結びつかなかった。 ・「手紙にみる伊東静雄」ホームページは完成し、命日である 3 月 12 日(菜の花忌)に公開の予定。
課題、改善提案等	・「図書館まつり」は外部講師やボランティア団体の協力を得て、本来の 11 月に実施する。プログラムの内容や対象年齢が的確に伝わるような広報の工夫が必要である。 ・「おりがみであそぼう」は図書館サポーターという立場上、講師の確保が不確定であることから積極的な広報を敢えてしていなかったが、令和 6 年度からは区広報紙で定例行事として広報を行う。サポーター養成講座で提示する活動内容一覧に記載し、人材を増やす。また、開催する曜日や時間帯が適正であるかも年度を通して検討する。 ・美原図書館ティーンズ POP ふえすていばるについては、募集の方法について根本的に考え直す必要がある。ティーンズコーナーを設ける図書館が複数あるため、募集や関連ブックフェアの連携なども検討する。 ・「手紙にみる伊東静雄」ホームページ公開の際は、SNS 等で広報を行う。館内の地域資料コーナーに、QR コードの設置などホームページに誘導できる案内をする。

2. シニア層への資料・情報提供	
サービスの具体的方向性	⑥青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
目的	利用の中心であるシニア層やその周辺の方々にとって役立つ資料や情報を提供し、豊かな生活を送るための一助となる。
内容	・課題解決支援講座『グループワークで学ぶ-少林寺拳法らしく介護テクニック-』を開催し、実践も交えながら介護について学ぶ機会を提供する。関連資料の展示も行い貸出等の利用に繋げる。 ・地域包括支援センターとの協働で、認知症についてのブックフェアを実施し、関連ブックリストを作成・配布する。

	・書庫にある美原町立図書館時代の豊富なよみもの資料を活用して、昭和～平成初期に活躍した物故作家をテーマにしたミニブックフェアを定期的に実施する。	
効果	楽しみとしての読書活動を支援するとともに、生活に必要な情報を得ることができる場所として図書館を認識してもらうことにより、シニア層やその家族の利用を促進する。	
指標	・課題解決支援講座の参加者数、アンケートの満足度 ・連携ブックフェアの実施、関連ブックリストの作成と図書館ホームページ等での公開 ・ミニブックフェアの実施回数、貸出数	
実施結果	・一般社団法人 SHORINJI KEMPO UNITY 公認介護技術マイスターで大学や高校の少林寺拳法部監督も務めるカイロプラクターの八木克敏氏を講師に、課題解決支援講座『グループワークで学ぶー少林寺らしく介護テクニクー』を令和 5 年 12 月 16 日に開催した(21 人受講)。介護者や被介護者の体の動かし方を理論的に解説する講義と実演の後で、参加者同士が 2 人 1 組でグループワークを行う実践的な講座とした。会場内では関連資料の展示も行った。 ・認知症をテーマとしたミニブックフェア「認知症について考えてみませんか？」を令和 5 年 8 月に実施した。関連ブックリストを作成し、図書館と美原基幹型包括支援センターで配布したほか、図書館の SNS で公開した。 ・没後 10 年以上が経過した人気作家（森瑤子・半村良・北原亜以子）の書庫にある著作を集めたミニブックフェア「あの作家を読み返す」を令和 5 年 12 月までに 3 回実施した。また、訃報が伝えられた著名人の著作を書庫の資料も含めて展示する追悼ブックフェアも 14 回実施した。	
効果検証	①妥当性	高齢者の比較的多い美原区において、利用の中心である高齢者やその周囲の人の役に立つ取組は利用者の満足度向上に繋がるほか、未利用者に図書館の存在をアピールし利用に繋げるものである。
	②インパクト	課題解決支援講座は広報さかい（全市版）の図書館のページではなく福祉のページに掲載されたこともあり、図書館を利用していない人の受講も目立った。
	③効率性	課題解決支援講座で図書館資料の展示を行うことで、図書館で情報が得られることを伝えられた。 ブックフェアにより、通常利用者の目に触れにくい書庫の資料に貸出の機会を与え、所蔵資料を有効活用している。
	④協働の視点	—
評価	・課題解決支援講座は 21 人が受講した。受講者は 30 代から 70 代まで幅広く、区外在住の人も多かった。アンケートでは講座の内容について「とてもよかった」が 86%、「よかった」が 14%と全員が良いと回答、講師の継続的な講座開催を希望する記載も多く、非常に満足度の高い結果となった。休憩時間や終了後には講師に相談をする人や、展示した関連資料を熱心に見る人が多くいた。 ・ミニブックフェア「認知症について考えてみませんか？」ではブックリストに掲載した資料を中心に 20 冊程度を展示したがすぐに貸し出され、何度も補充をして最終的に約 70 冊を展示した。 ・ミニブックフェア「あの作家を読み返す」は 41 冊中 23 冊（56.1%）が借りられた。「先月展示していた本が読みたい」という声もあったため、リスト化したものを綴ったファイルをブックフェアコーナーに設置した。追悼ブックフェアは 181 冊中 113 冊（62.4%）が借りられた。	

課題、改善提案等	・介護は非常に身近で切実なテーマでありニーズが高いこと、ワークショップを伴う実用的な内容の満足度が高いことがわかった。今後も地域の課題について情報収集に努め、講座の内容についてもよりニーズに合致するよう企画する。 ・ブックフェアをしてもジャンル・作家によってはあまり貸出されないこともあるが、利用者に当館の財産とも言える状態の良い書庫資料を知ってもらうためにも、今後も継続して幅広い内容のブックフェアを実施する。
----------	---

3. 連携と広報の強化	
サービスの具体的方向性	①市民の読書環境の充実にさらに努めます。
目的	図書館の存在やサービスについて知らない、また知っているが利用したことがない潜在的利用者に向けて、地域の知の拠点としての図書館を認識してもらい、利用促進に繋げる。
内容	・美原保健センターとの連携により、各種ブックフェアの実施と保健センターの資料配布、マタニティフェアへの協力など図書館内外で事業を実施する。 ・学校園との連携を積極的に行う。 ・美原区役所企画総務課との連携のもと、昨年度 1 回実施したらぽーと堺での絵本読み聞かせ会の試行を継続する。 ・単独館の特徴をアピールするために、庭の花や木、府立農芸高校の生徒による植栽展示の写真を定期的に SNS に投稿してきたが、関連する内容の本と一緒に紹介することで図書館と本の両方の魅力を発信する。
効果	新規利用者の獲得により図書館利用を増加させる。 また、区役所や市の関連施設・学校園、近隣の商業施設との連携により、区の魅力向上の一端を担う。
指標	・連携事業数 ・連携事業への参加者数 ・SNS への投稿件数
実施結果	・保健センターとの連携による食育に関するブックフェアを令和 5 年 6 月に実施し、関連ブックリスト「たのしく食育！」を作成、保健センターの資料やノベルティグッズとともに配布した。 ・マタニティフェア（3 回）に図書館コーナーを出展した。 ・区内の子育てひろばの要請を受けて、乳幼児の保護者対象の絵本に関する講座に令和 5 年 12 月までに 3 回出務した。また、美原区子育て支援課が 0 歳児と保護者を対象に開催する「赤ちゃんあつまれ!!」でも同様に講師を務めた。 ・令和 4 年度に引き続き美原中学校から依頼を受け、1 年生が図書館を活用した宿題をする際の支援を行った。 ・ららぽーと堺での読み聞かせは、美原区役所企画総務課の方針により他の連携事業を優先して実施したため今年度の実施はなかったが、令和 6 年度は学校園の長期休業の時期に実施を考えているとのことである。

	・例年続けている美原区域まちづくり事業「美原まちなか文庫」への協力（図書館で活用しなかった寄贈資料の提供・資料の選別など）を継続して行い、その事例を所管課の企画総務課職員とともに堺っ子読書フォーラムで発表した。 ・行事の広報のほか、農芸高校の植栽や庭木を所蔵資料と共に撮影したシリーズ「美原図書館 庭と本」を SNS で公開した。	
効果検証	①妥当性	図書館の存在や有用性を知らない潜在的利用者への働きかけは重要である。
	②インパクト	連携事業はその所管や施設で広報をすることが多いため、図書館の広報媒体を見ない人にも情報を届けることができる。
	③効率性	図書館の広報媒体の他に、図書館外の媒体に掲載されることは非常に効果的である。
	④協働の視点	美原区役所や保健センター、学校園と連携して実施
評価	・マタニティフェアに参加した 10 組（毎回）のプレママ・パパに対し、可能な範囲で声を掛け、図書館や赤ちゃん絵本の案内を行った。 ・子育てひろばでは 3 回の訪問で合計 27 組の親子に読み聞かせの啓発や絵本の紹介をした。 ・美原中学校の生徒が来館した際に貸出カードを作るケースが昨年に比べ目立ち、令和 5 年 7 月 18 日～8 月末までにカードを作った同校区の 1 年生は 4 年度の 5 人に対し 12 人に増加した。 ・SNS には令和 5 年 12 月末までに 47 件投稿した。そのうち「美原図書館 庭と本」は季節ごとに 6 件投稿。また、美原区長の SNS でも図書館を紹介するポストが 6 件投稿されている。	
課題、改善提案等	・ティーンズ POP ふえすていばるの事例も同様であるが、連携事業は図書館側でコントロールできない事情により、内容が変わったり中止になったりするケースがある。今後の事業ではそのことを踏まえておく必要がある。 ・一方、求められた際には可能な範囲で連携や協力ができるよう、また機会があれば新たな連携先と繋がることのできるよう、情報収集に努めることは重要である。	

取組の様子



図書館まつりミニ(美原かるたであそぼう！)



ティーンズ POP ふえすていばるブックフェア



「手紙にみる伊東静雄」HP



認知症ブックフェア



課題解決支援講座（講師の解説）



課題解決支援講座（グループワーク）



赤ちゃんあつまれ!!



SNSにポストした写真

令和 5 年度の取組総括
昨年度に引き続き来館者の満足度向上と、潜在的利用者へのアプローチを目標に各事業をおこなった。 1.館内の環境整備 ・従前から不調であった空調機の不具合箇所が増加。冷房機能が限られる中少しでも快適に過ごしていただくため、複数個所に扇風機や冷風扇を設置した。 ・11 月から空調機器の更新工事を行っている。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため行っていた措置を一部解除した。窓の常時開放をやめ、閲覧用の座席数を増やした。カウンター前のビニールシートの撤去により、高齢利用者など聞こえにくい方とのコミュニケーションが取りやすくなった。 2.各種行事・講座の実施 定例の事業も昨年度より参加者・受講者が増加しているものが多い。 ・図書館サポーター養成講座に 5 人が参加した。新規にサポーターになった方が、「おりがみであそぼう」や本の修理で活躍している。 ・子ども司書養成講座は小学生 2 人が受講した。「本のおたのしみパック」開催時には家族と一緒に来館してパックを借りるなど熱心な図書館ユーザーになっている。 ・「読み聞かせボランティア養成講座」は 4 人が参加、全員が活動を希望し、うち 2 人が既に美原区で活動する団体に登録している。 ・おはなし会等の定例行事の参加者数は、令和 5 年 12 月末時点で昨年度より 23%増加している。 定量的指標を見ると貸出点数は昨年度同時期に比べ減少しており、これらの取組が貸出に結びついているとはいえない状況である。一方、夏以降雨漏りの発生や猛暑時の冷房不調など、施設面で利用者に快適な環境ではなかったにもかかわらず来館者数には目立った変化がない。 今年度の図書館アンケートで「館内の過ごしやすさはいかがですか」の項目は 5 点満点で 2 日間平均 4.24（4 年度は 4.29）、「この図書館全体の満足度はいかがですか」の項目が 4.32（4 年度は 4.25）と比較的高い数値になっている。 アンケートの結果、「本日は本や雑誌などをお借りになりましたか」の項目で「本や雑誌を借りなかった」と回答した人が平日に 40.5%、日曜日にも 34.1%いることから、美原図書館で本を借りることなく、調べものや雑誌や新聞の閲覧のための場として利用している人が比較的多いのではないかとと思われる。 今後は、そういった利用者を資料の貸出に誘導する仕組み、また館内に滞在している人のニーズを汲み取った講座等の実施も考える必要がある。

図書館協議会委員の評価